

JETプログラム 外国語指導助手（JET-ALT） 活動事例集

令和5年7月



はじめに

JETプログラム（The Japan Exchange and Teaching Programme）は、総務省、外務省、文部科学省及び一般財団法人自治体国際化協会（CLAIR）の協力の下、外国青年を招致して地方自治体等で任用し、外国語教育の充実と地域の国際交流の推進を図る事業であり、外国語指導助手（ALT）、国際交流員（CIR）、スポーツ国際交流員（SEA）の3種の職種があります。本事例集は、このうち外国語指導助手（ALT）の活動に注目し、公募により収集した事例を取りまとめて紹介するものです。

JETプログラムにより来日したALT（JET-ALT）は、全国各地にある小学校・中学校・高等学校の外国語活動や外国語科の授業等において担当教員の助手として活躍しているほか、地域における国際交流活動にも貢献しています。令和4年度には、JETプログラム参加者総数の9割以上に当たる5,277人のJET-ALTが世界各国から来日し、全国945の任用団体（都道府県及び市区町村等）で活躍しています。

JET-ALTについては、直近では平成19年にCLAIRにより「JET活用マニュアル」が作成されましたが、その後、外国人住民の増加や多国籍化が進行するなど、地域の国際化を巡る状況は大きく変化しています。また、改訂学習指導要領の実施に伴い小学校での英語教育が教科化されたほか、教育現場におけるICTの利活用も進展しています。

そこで、総務省では、この間の上記の変化を踏まえ、現場におけるJET-ALTの現在の取組を把握するとともに、その更なる活用を促進するため、有識者及び関係省庁による「JETプログラム外国語指導助手（JET-ALT）活動事例集作成ワーキンググループ」を設置し、本事例集を作成することとしました。令和5年3月に任用団体からの公募を行い、先進的な事例としてワーキンググループで選定した計30事例を掲載しています。

本事例集が、これからJET-ALTの採用を検討する団体や、JET-ALTの更なる活用を模索している団体、また現場で活動しているJET-ALTの皆さんにご活用いただけることを期待しております。

最後に、本事例集の取りまとめに際し、原稿の執筆、写真等の提供にご協力いただいた各任用団体の皆様に心から感謝申し上げます。

目次

はじめに	1
事例の整理	3
多彩!教室で活躍するJET-ALT	
No.1 ALT目線で発信「ALT Journal」の作成(宮城県)	6
No.2 異文化理解を深める速読ワークシート(福岡県北九州市)	8
No.3 児童の表現力を高める「チャレンジタイム」の実践(新潟県柏崎市)	10
No.4 小学生オンライン英会話「チャレンジ One-on-One Talk with ALT」(宮崎県宮崎市)	12
No.5 JET-ALTとCIRの協働による異文化理解講座(奈良県)	14
No.6 国際交流企画「一宮言語交流活動」(香川県高松市)	16
No.7 オンラインによる文化・言語交流プログラム(京都府)	18
No.8 英語ディベート講座のオンライン実施(山形県)	20
No.9 JET-ALTを増員し「グローバル人財」を育成(茨城県)	22
No.10 JET-ALTの複数人配置を通じた英語力向上の取組(東京都)	24
No.11 JET-ALTの常駐による特色ある小学校づくり(富山県立山町)	26
No.12 現場のニーズとALTのスキルのコーディネート(広島県神石高原町)	28
No.13 特別支援学校における外国語教育の充実等に資する取組(神奈川県)	30
No.14 韓国人高校生とのオンライン交流企画(鳥取県)※英語以外の外国語の事例	32
コラム 現場のJET-ALTから	
①クリエイティブ・ライティング(東京農業大学第二高等学校)	34
②メールを通じた国際交流プログラム(京都府)	36
③教職員向け英会話教室「イングリッシュ・カフェ」(熊本県熊本市)	38
輝く!地域へ飛び出すJET-ALT	
No.15 新潟県立国際情報高等学校とIUJ(国際大学)との「かけはし」プロジェクト(新潟県)	42
No.16 JET-ALTによる地域紹介動画の作成(宮崎県宮崎市)	44
No.17 小樽イングリッシュキャンプ(OEC)(北海道小樽市)	46
No.18 JET-ALTが高校生を応援!グローバルキャンプ(神奈川県)	48
No.19 夏季休業中の「イングリッシュ・キャンプ」(新潟県上越市)	50
No.20 夏季講座「クリエイティブ・ライティング・キャンプ」(愛媛県西条市)	52
No.21 イーハトーブの森~英語で未来を拓くワークショップ~(岩手県)	54
No.22 JET-ALTによる英語劇指導(石川県)	56
No.23 ALT・CIRが活躍する県民向け世界文化セミナー(茨城県)	58
No.24 JET-ALTによる市民向け英会話講座(茨城県桜川市)	60
No.25 住民向け英会話教室(徳島県勝浦町)	62
No.26 コロナ禍でもできる「KID'S WORK-OUT」ビデオ(新潟県燕市)	64
コラム 現場のJET-ALTから	
④英会話教室「EASY英会話」(熊本県美里町)	66
JETプログラムとは	68
「JET-ALT活動事例集作成ワーキンググループ」構成員名簿及び開催状況	69

事例の整理

- ・ 現場のJET-ALT自身による投稿事例は、コラム「現場のJET-ALTから」として、各章末尾に掲載した。
- ・ JET-ALTの採用や更なる活用を模索している団体の参考となるよう、すべての事例について、取組の主体、取組の対象、地域の国際化、特色ある取組の観点から、下表のとおり整理を行い、各事例のタイトル上部に表示した。

	事例番号	頁	取組の主体			取組の対象						地域の国際化			特色ある取組		
			JET-ALT	任用団体	CIR等との連携	児童・生徒				教員	住民	異文化理解	地域活性化	多文化共生	長期休業中の取組	配置の工夫	デジタルツールの活用
						未就学児	小学	中学	高校								
多彩! 教室で活躍する JET-ALT	No. 1	6	○	○			○	○	○				○	○			
	No. 2	8	○	○				○				○					
	No. 3	10	○	○			○								○		
	No. 4	12	○	○			○					○		○			○
	No. 5	14	○	○	○				○			○		○			
	No. 6	16	○		○			○				○					○
	No. 7	18	○						○			○					○
	No. 8	20	○	○					○					○			○
	No. 9	22	○	○				○	○	○		○			○		○
	No. 10	24	○	○					○						○		
	No. 11	26	○	○			○					○	○		○		
	No. 12	28	○	○			○	○			○			○	○		○
	No. 13	30	○	○			○	○	○			○			○		
	No. 14	32	○						○			○	○				○
コラム①	34	○						○								○	
コラム②	36	○					○	○			○					○	
コラム③	38	○							○								
輝く! 地域へ飛び出す JET-ALT	No. 15	42	○		○				○			○	○	○			
	No. 16	44	○	○				○					○				○
	No. 17	46	○	○			○	○					○		○	○	○
	No. 18	48	○	○					○								
	No. 19	50	○	○				○			○			○	○		
	No. 20	52	○		○				○		○			○			○
	No. 21	54	○	○			○	○	○								○
	No. 22	56	○		○				○			○					
	No. 23	58	○		○						○			○			○
	No. 24	60	○	○							○	○					
	No. 25	62	○	○							○	○					
	No. 26	64	○	○		○											○
コラム④	66	○								○	○					○	

多彩!教室で活躍するJET-ALT

本章では、指導方法の工夫や、授業内の国際交流・異文化理解など、教室で多彩に活躍するJET-ALTの取組を掲載する。オンライン交流など、ICTを活用した取組も紹介する。

多彩!教室で活躍するJET-ALT

取組の主体			取組の対象				地域の国際化			特色ある取組			
JET-ALT	任用団体	CIR等との連携	児童・生徒			教員	住民	異文化理解	地域活性化	多文化共生	長期休業中の取組	配置の工夫	デジタルツールの活用
			未就学児	小学	中学								

No. 1 ALT目線で発信「ALT Journal」の作成

実施時期：令和2年～現在
任用団体名：宮城県

取組のポイント

- 県内のJET-ALT等、JET参加者の視点から見た身近な宮城の題材を、「ALT Journal」として発信、ホームページに掲載。
- リーディング教材として活用し、児童生徒に、教科書以外の英語に触れる機会を提供。

任用団体の基本情報

人口：2,264,921人

※令和5年4月1日現在

JETプログラム参加者の人数：(ALT) 54人 (CIR) 5人 (SEA) 0人

学校数：中学校2校、高等学校74校、特別支援学校19校

取組の背景・課題

宮城県では、児童生徒が英語を読む楽しさや面白さに触れ、自主的に学ぶことへの意欲を高め、より積極的に英語学習に取り組むことを目指し、自主学習英語問題「Miyagi English Library」を作成することとした。

教科書以外のオーセンティックな（本物の）英語や題材に触れるチャンスを増やしてほしいとの願いから、この問題集の中に、読み物問題として県内JET参加者が作成する「ALT Journal」を設けた。

身近な宮城の題材を取り上げることで、児童生徒には興味を持って英文を読み、英語を使つてのコミュニケーションを楽しんだり視野を広げたりしてほしいと考えている。

取組の内容

- 県内在住の外国人であるJET-ALTの目線から、宮城県についてのトピックを英語で発信する。彼ら自身が県内で生活する中で印象に残った場所、イベント、興味をもった事柄（名物、体験など）を取り上げることで、児童生徒が自分達の身近な話題として興味を持って読めるように工夫している。JET-ALTの経験や視点を通して書かれた文章から、児童生徒はふるさととの長所等に気づき、新たな視点を獲得する機会となる。
- ALT Journalには、自分で考えたり表現したりする問題や、読んだ内容に関してJET-ALTの先生に質問してみるよう促すコメントなどを入れ、実際のコミュニケーションにつながるよう工夫している。
- 県内各地のJET-ALTが執筆を担当することで、幅広い話題を提供できる。また、彼らの出身国についても触れ、児童生徒が海外の文化についても興味を持つきっかけになる。

取組の内容（続き）

- ALT Journalは、語彙数や文法事項等のレベル別に作成している。英語話者であるJET-ALTが作成するという利点を生かし、できるだけ自然な表現を使用しながら、生徒の習熟度に応じて、語彙や文法を調整している。
- 本取組の成果は、教育庁のホームページに掲載しているため、容易にアクセスでき、授業、自主学習等、教員・児童生徒ともに自由に活用することができる。
- また、Miyagi English Libraryには読み物教材も掲載しており、宮城県防災ガイドブック（Miyagi Disaster Handbook 外国人用）や東日本大震災遺構など、防災、震災伝承に関する内容を取り上げている。これらの教材は、指導主事が作成を担当し、義務教育課のALT-PA（県アドバイザー）が監修に携わっている。

Miyagi English Library ★★★

ALT Journal

My two hometowns: Kami and Iowa
By: Dakota Kelley (Kami ALT)

This winter it snowed for three days. I watched the snow to see if it would stop. It was beautiful, but the snow reminded me of my hometown, Iowa. I felt a little homesick, so I checked a highway camera in Iowa on my computer. The images showed me how much snow had fallen. I was surprised because there wasn't that much snow!

When I went back to Iowa for the winter vacation, it also snowed for three days. My home in America was just like Kami town!

In Kami, Mt. Yakurai is a good place to ski. There aren't any mountains in Iowa. But, like Kami town, Iowa has many fields that become blanketed with snow.

This year, I saw many children playing in the snow! In Iowa, children usually sled down hills, throw snowballs, and build snowmen. Kami Town's children play the same way. For me, I want to practice skiing with locals and students. (165 語)

※ Iowa: アイオワ州 homesick: ホームシック highway camera: 道路監視カメラ
images: 画像 blanketed with: ーでまみれた field: 畑 sled: スリッパをする
hills: 丘 snowballs: 雪玉 snowmen: 雪だるま

Questions

1 Why did Mr. Kelley check the highway camera?

2 What do children in Kami Town usually do in winter?

* How did you spend your last winter vacation? If you have the chance, would you like to go abroad next winter? What would you do and where would you go? Write about it.
Last winter vacation I _____
For next year's winter vacation I want to _____

ALT作成のALT Journal

Miyagi English Library ★★★

Miyagi Disaster Handbook [Read and Think]

Goal 防災ガイドブックの内容を伝えよう!

「宮城県防災ガイドブック『Miyagi Disaster Handbook』(外国人用) を読んで、あとの問いに答えましょう。

I Main Types of Disasters and What to Do When They Happen

Earthquakes

Japan is one of many countries which are affected by earthquakes. Since we do not know when an earthquake will occur, we need to take daily precautions to prepare for them.

◎ Damage Caused by Earthquakes

- ◆ Earthquakes, especially large ones, can cause various kinds of damage.
- ◆ Objects may fall on you, buildings and roads may collapse, and the ground may split/crack. Furthermore, fires may spread, and electricity, gas, and water supply may be stopped. You may not be able to use telephones and / or internet.
- ◆ Because Japan is surrounded by oceans, there is also danger of a tsunami hitting coastline regions.
- ◆ Aftershocks may continue for a long time after a big earthquake, so caution is necessary. (132 語)

※ disaster handbook 防災ガイドブック what to do 対処法
be affected 影響を受ける daily precaution 日頃の備え
collapse 崩れる split/crack 地割れ/山崩れ
furthermore さらに gas ガス water supply 水道 be stopped 中断される
coastline regions 沿岸地域 aftershocks 余震 caution 注意

(1) ガイドブックの内容を下の□にまとめました。内容と合うように①に◎はガイドブックから語を抜き出し、②は適する語を書き入れて、英文を完成させましょう。

Japan is affected by earthquakes. So we have to (①) for them. Earthquakes can cause various kinds of damage. You may not be able to (②) telephones and / or internet. Even if a big earthquake stops, we have to (③) careful .

① _____ ② _____ ③ _____

3 問中

防災ガイドブックに関する読み物教材

取組の成果・今後の展望

本取組は、県内JET-ALTの協力があってこそこのプロジェクトである。JET-ALTは、児童生徒の英語力向上のための力になりたいという気持ちが強く、自分が撮影した写真を掲載したり、子供たちが興味を持って取り組めるようなクイズを考えたり、様々な工夫をこらしてALT Journalを作成している。彼らにとっても、自分が発見した宮城県の良さを広く児童生徒に向けて発信することができ、学校現場以外での活躍の機会となっている。

来年度以降も、ALT Journalの作成及び掲載を続け、ラインナップを充実させ、児童生徒がより多く本物の英語に触れる機会を作っていきたいと考えている。

問合せ先

担当部署名：宮城県国際政策課交流推進第一班

T E L : 022-211-2276

M A I L : koryu@pref.miyagi.lg.jp

U R L : <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/gikyoku/english-l.html>

(宮城県教育庁義務教育課 Miyagi English Library)



多彩!教室で活躍するJET-ALT

取組の主体		取組の対象				地域の国際化			特色ある取組				
JET-ALT	任用団体	CIR等との連携	児童・生徒 未就学児 小学 中学 高校			教員	住民	異文化理解	地域活性化	多文化共生	長期休業中の取組	配置の工夫	デジタルツールの活用

No. 2 異文化理解を深める速読ワークシート

実施時期：平成30年～現在
任用団体名：福岡県北九州市

取組のポイント

- JET-ALT 13人（7か国）それぞれの個性を活かして、生徒たちの異文化への興味・関心を高めると同時に英語の速読力をつけるため、ALT自身が自国文化を紹介する速読ワークシートを作成。
- 全市の英語科教員へ配布を行い、日々の授業や宿題で活用。

任用団体の基本情報

人口：917,524人

※令和5年4月1日現在

JETプログラム参加者の人数（ALT）13人（CIR）1人（SEA）0人

学校数：小学校127校、中学校62校、高等学校1校、特別支援学校8校

取組の背景・課題

本市の中学校は、学力テストの結果等から英語を読み書きする力に課題があり、どうすれば向上するか模索していた。

そこで、速読力や書く力を高めるため、教育委員会英語教育推進リーダーの発案により、外国青年指導員と協力して、市で任用している13人のJET-ALTがそれぞれ速読ワークシートを作成し、管理職及び英語科教員へ配布した。

このワークシートは、作成者であるJET-ALTの出身国の文化やイベントをテーマに作成されており、生徒の異文化理解を深めることにもつながる。

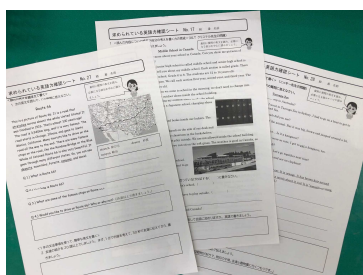
また、JET-ALTを夏季休業期間中や、授業の空き時間などに活用することができる。

取組の内容

- 速読ワークシートは、リーディング部分とライティング部分の2つで構成されている。リーディング部分は、出身国の文化やイベントについてJET-ALTが文章を作成し、ライティング部分は、日本の文化やイベントについて生徒が作文している。
- ライティングが終了したら1人ずつJET-ALTの所へ行き、書いた英文を読み上げる。そして、JET-ALTがチェックしスタンプを押す。（JET-ALTと1対1の会話の機会が持て、JET-ALTにとっても生徒のことを直接知る良い機会となる）
- 速読ワークシートを市内の全中学校の英語科教員と校長及び教頭へ送付し、それぞれの英語科教員が授業に取り入れたり、宿題に用いるなどして活用している。
- 市内のJET-ALT間でも共有し、JET-ALTから英語科教員へ、速読ワークシートについて紹介し、授業で使うことを提案している。

取組の内容（続き）

- ワークシートのライティング部分の添削をJET-ALTがサポートすることにより、生徒のつまづきやすい所を知り、JET-ALTが問題意識を持って授業に取り組むことができる、というメリットがある。
- Googleなどの自動翻訳機能に頼りすぎて間違った表現を覚えることもある。言い方や表現がわからない時はできるだけJET-ALTやJTE（日本人英語指導者）にまず聞くように促している。より難しい英文になってくると、ペアやグループで協力して考えることで、楽しくより記憶にも残りやすいことがわかった。
- PA（JETプログラム取りまとめ団体アドバイザー）に例を作成してもらい、月1回のミーティングで共有し、JET-ALTに作成を依頼した。このワークシート作成の意図やJET-ALTの役割を周知すること、できあがったワークシートのフォーマットを揃えることに苦心した。
- 内容については、JET-ALTならではの自国の紹介、生徒が興味をもつような内容、内容理解だけでなく生徒が自分の考えを表現する活動にまで高めていけるようなステップを取ることを工夫した。



ワークシートの写真



英語の授業の様子



ワークシートを添削するJET-ALT

取組の成果・今後の展望

生徒は、JET-ALTの自然な英語表現に触れながら、一定量の英文を繰り返し読むことで、読むことに慣れてきている。また、英作文を通して自分のことについて表現したり、書く力も向上している。

生徒が自分の学校のJET-ALTのみならず、他校の様々なバックグラウンドを持つJET-ALTの考えや文化について理解を深めることができた。

現在、学校や教員によって速読ワークシートの活用状況に差があるため、より多くの生徒に取り組んでもらえるよう、市独自の英語教育広報誌「英語教育グッドプラクティス（文科省からの通達、良い授業やワークシート、JET-ALTとのチームティーチングの様子などを写真を交えて紹介している広報誌）」にJET-ALTとともに学習している様子を紹介するなど広報に力を入れ、啓発していくように心がけた。

問合せ先

担当部署名：北九州市教育委員会学校教育部学校教育課

T E L : 093-582-2368

M A I L : advisor01@city.kitakyushu.lg.jp

U R L : <https://www.city.kitakyushu.lg.jp/kyouiku/index.html>



多彩!教室で活躍するJET-ALT

取組の主体			取組の対象				地域の国際化			特色ある取組			
JET-ALT	任用団体	CIR等との連携	児童・生徒			教員	住民	異文化理解	地域活性化	多文化共生	長期休業中の取組	配置の工夫	デジタルツールの活用
			未就学児	小学	中学	高校							

No. 3 児童の表現力を高める「チャレンジタイム」の実践

実施時期：令和4年～現在
任用団体名：新潟県柏崎市

取組のポイント

- 様々なJET-ALTに対して、自分のことを伝えたり、相手のことを聞いたりすることを通して、英語を使う楽しさを味わい、積極的にコミュニケーションをとろうとする態度をはぐくむことがねらい。
- 児童は1年間の学びをフル活用しながら、ゲストALTと1対1で3分程度のスモールトークを楽しむ。

任用団体の基本情報

人口：78,167人

※令和5年4月1日現在

JETプログラム参加者の人数：(ALT) 2人 (CIR) 0人 (SEA) 0人

学校数：小学校20校、中学校11校

取組の背景・課題

従来のパフォーマンス課題では、普段の授業でかかわりのあるJET-ALTに対してのスモールトークやプレゼンテーションを行うため、お互い知っている状況で自己紹介をするなど、コミュニケーションを図る必然性が乏しく、児童の主体性や積極性をはぐくむには困難があった。

そこで、令和2年に英語専科教員の発案により、普段はかかわりのない複数のJET-ALTに対して、自己紹介や好きなものについての話題等で会話することとした。これにより、コミュニケーションを図る必然性が生まれ、児童の積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成をねらった。

取組の内容

市の取組の中から、N小学校での事例を紹介する。

- 柏崎市立N小学校でのチャレンジタイムの実践内容

1 期日 令和5年2月1日(水) 5・6限(13:35~15:10)

2 対象 5年生：16名 6年生：6名

3 ゲストALT 3名(アンディ・シーラ・ジョー)

※ゲストALTのスケジュール調整は、教育委員会学校教育課指導主事が行った。

4 単元名『チャレンジタイム：外国の人に自己紹介しよう』

5 実施方法

①チャレンジタイムは、空き教室でゲストALTと児童一人の状態を実施する。

取組の内容（続き）

- ②児童はこれまでの学びを生かし、ゲストと1対1で3分程度のスモールトーク（自己紹介中心）を楽しむ。
- ③待機中は一人で練習したり、友だちをペアになって一緒に練習したりする。
- ④3回のチャレンジタイムが終了したら、ふり返しシートに感想を記入する。
(New HORIZON Elementary 5 Check Your Step ①)

6 取組の様子



取組の成果・今後の展望

児童一人当たり、3分間のスモールトークを3回実践するため、回数を追うごとに会話の質や量が向上している。

この取組を単元のゴール活動として実施しているため、ゴールから逆算した単元づくりや授業づくりにつながり、児童も毎時間の授業がどのゴールに向かっているのかを把握しながら、意欲的に日々の授業に取り組むことができる。

チャレンジタイムは比較的小規模の小学校での実践例ではあるが、ALTの数を増やしたり、実施方法を工夫するなどして、規模の大きい小学校や中学校においても実践していきたい。

問合せ先

担当部署名：柏崎市教育委員会学校教育課

T E L : 0257-43-9132

M A I L : gakkyo@city.kashiwazaki.lg.jp

U R L : <https://www.city.kashiwazaki.lg.jp/soshikiichiran/kyoikuiinkai/gakkokoyoikuka/index.html>



多彩!教室で活躍するJET-ALT

取組の主体			取組の対象				地域の国際化			特色ある取組				
JET-ALT	任用団体	CIR等との連携	児童・生徒 未就学児 小学 中学 高校				教員	住民	異文化理解	地域活性化	多文化共生	長期休業中の取組	配置の工夫	デジタルツールの活用

No. 4 小学生オンライン英会話

「チャレンジ One-on-One Talk with ALT」

実施時期：令和4年～現在
任用団体名：宮崎県宮崎市

取組のポイント

- 夏季休業中、市立小学校の6年生を対象に、Zoomを活用したオンライン英会話を、JET-ALTと1対1形式で実施。
- 児童が、JET-ALTに自分の英語が伝わったことの喜びを感じることで、学習意欲の高まりに繋がる良い機会を創出。

任用団体の基本情報

人口：397,898人

※令和5年4月1日現在

JETプログラム参加者の人数：(ALT) 25人 (CIR) 1人 (SEA) 0人

学校数：小学校47校、中学校25校

取組の背景・課題

本市は「臆することなく外国語（英語）によるコミュニケーションができる児童生徒の育成」のため、2019年度8月からJET-ALTを25名に増員し、市立の全25中学校区に1名ずつ配置している。JET-ALTは、配置中学校区の小学校にも派遣され、手厚い体制で外国語指導を行っている。

児童は、学校内でJET-ALTを通して生きた英語に触れる機会は増えたが、学校外で英語でのコミュニケーションを図る機会が少なかった。

そのため、指導主事の提案により、児童の英語に対する意欲や英語学習への動機づけを高めることを目的に、令和4年度からJET-ALTによる小学生オンライン英会話を夏季休業中に実施することとした。

取組の内容

小学生オンライン英会話「チャレンジ One-on-One Talk with ALT」は、以下の内容で実施した。

- ・ 参加者の募集は、各学校にチラシの配付を行うとともに、JET-ALTが授業の終わりに児童に宣伝するなど、積極的に周知を行った。
- ・ 夏季休業中の7月28日から8月19日の8日間、市立小学校6年生を対象に、JET-ALTと1対1で20分間、オンライン英会話を実施した。
- ・ Zoom（オンラインビデオ会議システム）により、JET-ALT（宮崎市教育情報研修センター）と児童（自宅）をオンラインで接続して実施した。
- ・ 児童は、1学期の外国語科の授業で学習した内容（例：自己紹介など）について、JET-ALTと英語でやり取りを行ったり、JET-ALTの出身国について話を聞いたり、互いにやり取りを行った。

取組の内容（続き）



オンライン英会話を実施しているJET-ALTの様子



パワーポイントを使って母国の紹介をしている様子

取組の成果・今後の展望

これまで、本市の学校外におけるJET-ALTの活用は、夏季及び冬季休業中の児童とJET-ALTとのグループ活動を主体としたイベントの実施だけであった。

今回、1対1によるオンライン英会話を実施することで、児童1人の力でJET-ALTと英語で会話ができるようにチャレンジし、英語でコミュニケーションを図る事の楽しさや難しさを体験できた貴重な機会となった。

参加した児童は、JET-ALTに自分の英語が伝わったことの喜びを感じており、学習意欲の高まりに繋がる良い機会となっていた。

来年度以降もこの取組を継続し、多くの児童がJET-ALTと積極的に英語でコミュニケーションを図る機会を提供し、JET-ALTを活用した児童生徒の外国語教育を推進していきたいと考えている。

また、児童1人に1台配置されているタブレットを活用し、JET-ALTの出身国の学校と児童のタブレットをオンラインで繋いで英語で交流を行うなど、今後とも積極的に活用していきたい。

問合せ先

担当部署名：宮崎市教育委員会 宮崎市教育情報研修センター

T E L : 0985-28-2426

M A I L : mcnet@mcnet.ed.jp

U R L : <http://www.mcnet.ed.jp>



取組の主体			取組の対象				地域の国際化			特色ある取組				
JET-ALT	任用団体	CIR等との連携	児童・生徒 未就学児 小学 中学 高校				教員	住民	異文化理解	地域活性化	多文化共生	長期休業中の取組	配置の工夫	デジタルツールの活用

No. 5 JET-ALTとCIRの協働による異文化理解講座

実施時期：令和5年1月

任用団体名：奈良県

取組のポイント

- 高等学校と市が連携し、高等学校配置JET-ALTと市のCIRが、希望する生徒を対象に交流活動を実施。
- 一方的な講義ではなく、JET-ALT、CIRが生徒と意見交換するなど双方向的な交流を実現。

任用団体の基本情報

人口：1,298,946人

※令和5年4月1日現在

JETプログラム参加者の人数：(ALT) 50人 (CIR) 7人 (SEA) 0人

学校数：高等学校35校、中等教育学校2校、特別支援学校10校

取組の背景・課題

県立畝傍（うねび）高等学校は、令和元年度から令和3年度まで「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（グローバル型）」に係る研究開発を行い、令和4年度からは「研究開発学校」に指定され、新教科「グローバル探究」を設定し、研究開発を行っている。

畝傍高等学校に配置されているJET-ALTのほか、他校から複数のJET-ALTの訪問日を設け、外国語の授業では、少人数制のティーム・ティーチングを通じて、生徒の発信力の強化にも取り組んでいる。

畝傍高等学校が橿原市と連携して異文化理解講座を企画し、JET-ALTとCIRが講師を務めた。講座を通して、生徒が世界に目を向けるとともに、課題意識をもち、それについて意見交換ができるような機会をもつことを目的とした。

取組の内容

異文化理解講座は以下の内容で実施した。

- 畝傍高等学校が、コンソーシアム機関としての橿原市と、前述の事業等に関わって様々な交流活動を行う中で、今回の取組が企画された。主なやりとりは、橿原市の観光政策課の担当者と、畝傍高等学校の担当者がメールで行い、ALTとCIRの双方のスケジュールを確認しながら、効果的な時期に開催できるよう調整を行った。また、橿原市の担当者には、普段から生徒の課題研究発表会に参加いただいていることもあり、そういった機会を最大限利用して、緊密に連携することを心がけた。
- 令和5年1月26日（木）の放課後、1時間程度で開催した。

取組の内容（続き）

- 対象は畝傍高等学校1・2年生の希望生徒。参加者数は30人程度であった。
- 初めに、JET-ALT（アメリカ出身）とCIR（カナダ出身）がそれぞれ自己紹介を兼ねて、自国の文化や教育、税制度などの社会制度、多様な性などについて話をした。
- JET-ALTとCIRは、普段の勤務場所は異なるが、日頃からよくコミュニケーションをとっており、企画や準備をスムーズに行うことができた。
- JET-ALTとCIRが日本で働くことになった経緯や、日本と自国との文化の違い、日本に住んで働いてみて感じたこと、戸惑ったことなどを話し、異文化で生活するとはどういうことかを伝えた。
- その後、生徒からの質問を受けたり、英語で意見交換を行ったりしながら、文化・価値観の違いや世界における様々な課題に目を向けることができるようにした。
- JET-ALTとCIRが自身の経験を交えて、海外勤務など世界で活躍することを目指す生徒に対するアドバイスも行い、生徒が将来実際に海外で生活したり働いたりすることをイメージできるようにした。
- JET-ALTやCIRと個別に話したい生徒には、講座の終了後、1対1でゆっくり話すことができる場を設けた。

取組の成果・今後の展望

畝傍高等学校では、「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（グローバル型）」、「研究開発学校」に係る研究開発をきっかけに、様々な国際交流プログラムやイベントを企画し、生徒に世界における課題に目を向けさせ、その解決に向けて主体的に取り組む姿勢を育成してきた。

今回の講座はその取組の一つであるが、普段から外国語の授業においても発信力の強化に重点を置いており、講座の中でも積極的に質問したり意見交流したりする姿が見られた。中には、全体の場ではなかなか発言できない生徒もいるが、1対1で話す機会を通して自信をつけ、全体の場でも自分の意見を言える力を養っていくことができると考えている。

問合せ先

担当部署名：奈良県立教育研究所 教育企画部 研究推進係

T E L : 0744-33-8903

M A I L : altsupport@office.pref.nara.lg.jp

U R L : <https://www.e-net.nara.jp>



多彩!教室で活躍するJET-ALT

取組の主体			取組の対象				地域の国際化			特色ある取組				
JET-ALT	任用団体	CIR等との連携	児童・生徒 未就学児 小学 中学 高校				教員	住民	異文化理解	地域活性化	多文化共生	長期休業中の取組	配置の工夫	デジタルツールの活用

No. 6 国際交流企画「一宮言語交流活動」

実施時期：令和3年度
任用団体名：香川県高松市

取組のポイント

- 生徒の英会話に対する内発的動機づけをするために、JET-ALTの提案でアメリカの中学校との交流を企画。
- プライバシーに配慮しながら、手紙の交換やビデオ交流を実施。

任用団体の基本情報

人口：411,006人 ※令和5年4月1日現在
JETプログラム参加者の人数：(ALT) 16人 (CIR) 0人 (SEA) 0人
学校数：小学校47校、中学校22校、高等学校1校

取組の背景・課題

授業での英語によるやりとりの際、生徒からの自主的な発言が少ないなど、生徒の外国語に対するモチベーションに課題がみられた。また、地域の実態として、JET-ALT以外の英語を母国語とする人材に出会う可能性が少ない実情があった。

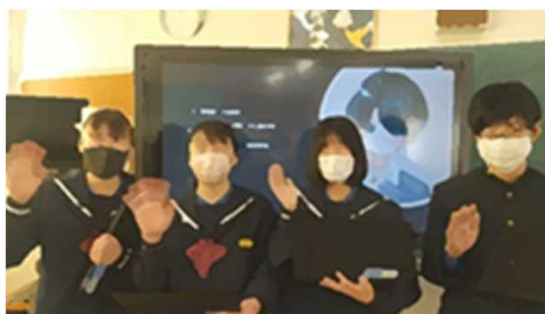
そこで、JET-ALTが、英語での会話に対する内発的動機づけをするために同年代のネイティブスピーカーと直接交流する機会を提供してはどうかとの提案を行い、アメリカの中学校との調整を行った。

取組の内容

- JET-ALTがアメリカの中学校の日本人教師とメール交換をして計画を進める。
- 3か月間で手紙、オンラインプレゼンテーション、ビデオ交流の3つの活動を行えるよう、ロードマップを作成した。
- 日本側は生徒の自己紹介の様子を、アメリカ側は学校と地域を紹介している様子を事前に撮影する。
- 事前に撮影した動画とあわせて生徒1人1人が書いた手紙、発表用のスライド資料、手書きポスターを送り合う。
- プライバシーの保護のため、日本側(JET-ALT)とアメリカ側(日本語教師)の間の動画等のデータの送信は、Googleドライブリンクとプライベートリンクを使用した。
- 個人情報特定されるもの(氏名・顔など)は授業のみで表示し、学生間でリンクの共有ができないよう配慮した。

取組の内容（続き）

- 交流開始にあたり、計画書を作成し、学校管理者・地域・各生徒の保護者の同意を得た。計画書には、JET-ALTが交流の目的と活動の計画（ロードマップ）を示すとともに、校長、県CIRから交流の意義と期待される成果についてのコメントを盛り込んだ。日本側では同意はスムーズに得られたが、アメリカ側の保護者からの同意をとるには、時間がかかり、最終的に40名の保護者のうち2名からは同意が得られなかった。
- アメリカの学校や地域との正式な連絡が必要となる場合に備えて、校長の承認を得たうえで、県CIRへ協力を依頼した。
- 活動後、自由記述中心のアンケート形式で、生徒による活動の評価を実施した。それぞれに対し、JET-ALTがコメントを記入し、返却した。
- 時差があるため、ライブでのやりとりができず、あらかじめ撮影した動画を送り合う形をとった。
- アメリカ側保護者の同意を得るのに時間がかかり、計画どおりには進まなかった。JET-ALTの熱意でスタートした活動であるが、3つの活動をロードマップにそって無理なく実施するためには、前年度からの計画立案が必要であると分かった。



生徒による自己紹介の様子



アメリカから送られた動画の1シーン

取組の成果・今後の展望

事後アンケートの回答結果によると、生徒の99.5%以上が活動を「楽しかった」、90%が「英語を勉強する意欲が高まった」と評価しており、本取組は生徒のモチベーションにいい影響を与えているといえる。

現在の評価方法はアンケートであるが、どのような生徒のモチベーションに顕著な変化がみられたかについて分析するには、項目数や回答方法が不十分であるため、階層化した質問や選択肢を工夫することが必要だと考えている。

今後、手紙の作成や地域や学校の様子を紹介するビデオの作成を教科書単位と関連づけて年間指導計画に盛り込み、交流を継続していきたいと考えている。

問合せ先

担当部署名：高松市教育委員会学校教育課

T E L : 087-839-2616

M A I L : gakkyo@edu-tens.net

U R L : <https://www.city.takamatsu.kagawa.jp/>



多彩!教室で活躍するJET-ALT

取組の主体			取組の対象				地域の国際化			特色ある取組				
JET-ALT	任用団体	CIR等との連携	児童・生徒 未就学児 小学 中学 高校				教員	住民	異文化理解	地域活性化	多文化共生	長期休業中の取組	配置の工夫	デジタルツールの活用

No. 7 オンラインによる文化・言語交流プログラム

実施時期：令和4年9月～11月

任用団体名：京都府

取組のポイント

- フィリピンと日本の文化的な結びつきを強化することを目的として、両国の生徒間でオンラインによる文化・言語交流プログラムを実施。
- プログラムを通じて、文化に関する議論を行い、両国の異なる文化的側面への理解を涵養。

任用団体の基本情報

人口：2,537,860人

※令和5年4月1日現在

JETプログラム参加者の人数：(ALT) 32人 (CIR) 2人

学校数：中学校4校、高等学校46校、特別支援学校12校

取組の背景・課題

この取組は、フィリピンの高校・大学等で勤務経験があったJET-ALTが発案・企画したものであり、生徒に生涯学習の機会を提供し、フィリピンと日本の絆を深めることを目的に実施した。また、このプログラムは、JET-ALTが現地と連携を図ることで、日本の生徒がフィリピンの生徒と交流し、互いの文化的な共通点や相違点を探るための場としても機能した。

取組の内容

取組の内容は、以下のとおりである。

- 令和4年9月と11月の2回にわたって、生徒に文化の振興への参画を促すことを目的としたオンラインミーティングを実施した。参加者は在籍学年でグループ分けされ、プログラムのために15分程度のプレゼンテーションを準備することとされていた。
- 各参加校からの参加者の年齢は15歳～17歳だった。
- 各回、1時間程度の活動で、それぞれの国の文化や価値観について意見交換した。トピックは、言語、季節、食べ物、文化などだった。交流先の生徒から日本の四季について質問があり、お互い紹介した言語を用いて話してみる等、交流を楽しむ様子がみられた。
- 京都府立山城高等学校は、セッションの進行を行い、プログラム最終日又はそれ以降に参加者に配布する修了証を用意した。
- 両校の教員は、生徒を観察し、評価することが期待された。また、自らの裁量でセッション後に振り返りや評価を求めることができた。

取組の内容（続き）

取組を実現する上で困難だったことは、技術的な問題である。例えば、インターネット接続、ヘッドセットやiPadの供給などで苦慮した。今後も同様の交流を行う際には、技術的な問題が起こった際に十分に対処できる体制が必要だと思われる。

また、言葉の壁で生徒が苦勞する場面があったが、生徒達の事前の入念な準備と、意見交流時に教員が適宜学生をサポートすることにより、困難を克服することができた。



オンライン交流をしている様子①



オンライン交流をしている様子②

取組の成果・今後の展望

日本人とフィリピン人の生徒が出会うことで、文化の多様性をより深く理解し、信頼関係を築くために英語コミュニケーション能力を活用することの重要性を理解することができた。

参加した生徒からは、「フィリピンの文化を知ることができる貴重な機会だった」「英語で自分の言いたいことが上手く表現できなかったのが残念だった」等の感想があった。

このような取組は、より長期的に、より多くの参加者を集めて実施することで、さらに発展していくと考えられる。また、より多くの生徒が英語コミュニケーション能力を向上させ、文化や言語の交流の手段を見出すきっかけとなることが期待される。

問合せ先

担当部署名：京都府教育庁指導部高校教育課

T E L : 075-414-5849

M A I L : koukyou@pref.kyoto.lg.jp

U R L : <http://www.kyoto-be.ne.jp/koukyou/cms/>



多彩!教室で活躍するJET-ALT

取組の主体		取組の対象				地域の国際化			特色ある取組		
JET-ALT	任用団体	CIR等との連携	児童・生徒	教員	住民	異文化理解	地域活性化	多文化共生	長期休業中の取組	配置の工夫	デジタルツールの活用

No. 8 英語ディベート講座のオンライン実施

実施時期：令和3年～現在

任用団体名：山形県

取組のポイント

- 英語によるコミュニケーション能力の向上を目指す県内高校生に対し、県内のJET-ALTの協力により、ディベートのスキルアップを目指したワークショップや模擬ディベート活動等をオンラインで実施。

任用団体の基本情報

人口：1,031,642人

※令和5年4月1日現在

JETプログラム参加者の人数：(ALT) 29人 (CIR) 4人 (SEA) 0人

学校数：中学校1校、高等学校45校、特別支援学校20校

取組の背景・課題

平成30年告示の高等学校学習指導要領に基づき、ディベートやディスカッションなどの活動を通して、英語でやり取りする力の育成が求められる中、各種英語ディベート大会への参加希望者が増加していることを踏まえ、英語によるコミュニケーション能力の向上を目指す県内高校生に対して、下記の2点を目標として、平成30年からディベート講座を開始した。(令和3年からはオンライン実施)

- ・ 英語によるディベート活動等とおし、グローバル社会で求められる英語によるコミュニケーション能力、論理的思考力、表現力等を伸ばす。
- ・ 自国の文化を再認識させながら国際理解を一層深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。

取組の内容

参加生徒は、本取組の期間中、所属校のJET-ALTによる指導を受けながら、ディベート講座に向けた事前準備を行う。

運営を行うJET-ALTはセミナーのコンテンツ開発に携わり、所属校のJET-ALTとも連携しながら、当日の運営及び指導を行う。

令和3・4年度の取組内容は以下のとおり。

①取組の期間

夏休み期間中から講座当日(令和4年度は3月27・28日)まで

②事前準備の内容

対戦相手を想定した自己紹介の準備、論題に対する肯定側・否定側両方の論拠資料(英語)の準備

取組の内容（続き）

③講座当日：ディベートスキルアップ講座「ベーシック」
午前：運営JET-ALTによるスピーキング及びディベートスキルアップ講座
午後：模擬ディベート（運営JET-ALTによるジャッジやフィードバック）
令和4年度の論題「高校生には宿題を課さないべきである。」

④講座当日：試合形式のディベート演習「スタンダード」
試合形式ディベート（運営JET-ALTによるジャッジやフィードバック）
令和4年度の論題「新学期は4月ではなく9月に始まるべきである。」

⑤当日の進行の工夫

・アイスブレイク

Zoomのブレイクアウトルームを活用し、参加校の生徒とJET-ALTや参加校の生徒同士が英語での簡単なやり取りをできるようにした。

・オンラインでのディベート

Zoomのブレイクアウトルームを活用し、参加校同士が対戦できるようにした。JET-ALTはディベートのジャッジをしたり、ディベートの振り返りに様々な観点からアドバイスしたりした。このアドバイスを参考にして、参加生徒は、プレパレーション・タイムの中で次の対戦に向けて準備することができた。

取組の成果・今後の展望

参加者へのアンケート結果（令和3年度）では、ベーシック・スタンダードの両講座で、参加者の90%以上から「大変良かった」又は「良かった」と評価された。

生徒たちは、本取組を通じて「協働（チームワーク）」「相手の意見を聞く」「自信を持って話す」「自分の意見を伝える」などのスキルが向上したと認識しており、英語でのコミュニケーション能力の向上に一定の成果があったと考えられる。また、リスニング力や、発言の明瞭さなどが大事であることを改めて認識する機会になった。

参加した生徒からは、以下のような感想が寄せられた。

- ・試合とは違い、JET-ALTの先生方とのアイスブレイクの時間なども設けられてあり、楽しく受けることができました。
- ・午前中からJET-ALTの先生方と楽しくコミュニケーションを取れて、良い時間でした。ディベートは緊張しましたが、プレパレーション・タイムの中で話し合いを濃く行えたのでよかったです。

今後も、本講座を通じて、JET-ALTと参加生徒がやり取りをする場面を確保し、ディベートのスキルアップを目指すとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成していく。

問合せ先

担当部署名：山形県教育局高校教育課

T E L : 023-630-2869

M A I L : ykoko@pref.yamagata.jp

U R L : <https://www.pref.yamagata.jp>



多彩!教室で活躍するJET-ALT

取組の主体			取組の対象				地域の国際化			特色ある取組			
JET-ALT	任用団体	CIR等との連携	児童・生徒			教員	住民	異文化理解	地域活性化	多文化共生	長期休業中の取組	配置の工夫	デジタルツールの活用
			未就学児	小学	中学								

No. 9 JET-ALTを増員し「グローバル人財」を育成

実施時期：令和4年～現在
任用団体名：茨城県

取組のポイント

- JET-ALTを中高一貫教育校等に複数配置し、授業内外で新たな活用方法を取り入れる。
- 県の事業においてJET-ALTを積極的に活用。
- JET-ALTとして複数年勤務した希望者からネイティブ英語教員を選考。

任用団体の基本情報

人口：2,828,848人

※令和5年4月1日現在

JETプログラム参加者の人数：(ALT) 59人 (CIR) 4人 (SEA) 0人

学校数：高等学校94校、中等教育学校3校、中学校10校

取組の背景・課題

本県では県立高等学校改革プランの下、令和2年度から令和4年度の間県立中等教育学校が1校、併設型県立中高一貫教育校が9校新たに設置され、県立中高一貫教育校が合計で13校となった。

これらの中高一貫教育校では探究活動・グローバル教育・科学教育等に重点をおいた教育活動が実施されることに伴い、令和元年度は県に40人いたJET-ALTを令和5年度の64人まで段階的に増員し、中高一貫教育校等の重点校に複数配置している。

取組の内容

1. 各学校におけるJET-ALTの活用事例

- JET-ALTが自分の大学時代の専攻を生かし、英語で他教科の授業をサポート
(実施例) 生物基礎の授業で英語での講義を行う。
中学生の理科の実験を英語で行う。

- オールイングリッシュによるディベートやディスカッションの授業
(ディベート論題例) 「知性は創造性に勝るか？」

- 長期留学からの帰国生徒／海外大学進学を希望する生徒に対する授業外の個別指導

- JET-ALTが中心となって海外の姉妹校とZOOM生徒交流



JET-ALTの専攻を生かした細菌の遺伝子組み換え実験の様子

取組の内容（続き）

- ウィークエンド・ライターズ・クラブ
 - ・JET-ALTが与えたテーマについて、毎週末、生徒がエッセイを書いて添削を受ける活動
- イングリッシュ・カフェ／イングリッシュ・ランチタイム
 - ・出身国の文化に関するレクチャーを放課後実施
 - ・JET-ALTが生徒と昼食を食べながら英会話
- 校内の英語教員研修にJET-ALTを活用
 - ・JET-ALTを交えて定期的に英語で行う教科会
 - ・JET-ALTチームと日本人教員チームで英語ディベート
 - ・JET-ALTの出身国の試験問題を参考とした作問研究



JET-ALTチーム対日本人教員チームの英語ディベートの様子

2. 県の事業におけるJET-ALT活用事例

- 茨城県高校生国連大学グローバルセミナー
 - ・国連大学と連携した全10回のプログラム
 - ・7人のJET-ALTがラーニングメンターとしてSDGsについてレクチャーし、リサーチスキル、ディスカッションスキル、プレゼンテーションスキルの研修を行う。
 - ・教材はJET-ALTの自作。毎年内容を更新しながらJET-ALT間で共有している。



JET-ALTが作成した高校生国連大学グローバルセミナーのウェブサイトより

- 茨城県高校生英語ディベート大会
 - ・今年度は全審査員22人のうち、10人がJET-ALT。うち2人のJET-ALTは運営委員として事前の計画・準備にも携わり、全国大会の審査も行った。

3. ネイティブ英語教員への登用

- 通算2年以上の勤務実績を有するJET-ALTのうち、希望する者は公立学校教員特別選考試験を受験可能
 - ・現在4人の元JET-ALTがネイティブ英語教員（講師）として県立高校・中等教育学校に勤務している。

取組の成果・今後の展望

重点校へのJET-ALTの複数配置が計画どおりに実施できたのは、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和4年8月になってからであるが、先行して配置された学校からは「英語資格試験での平均スコア向上」「英語の各種大会入賞」等の成果が報告されている。また、令和4年度英語教育実施状況調査では「CEFR A2レベル相当以上を取得している生徒」の割合が前年度比で大きく向上した。

今後は各校における成果を分析しながら、JET-ALT活用協議会等を通して先進的な好事例の共有を図り、授業内外でのJET-ALTの積極的な活用を更に促進していきたい。

問合せ先

担当部署名：茨城県教育庁学校教育部高校教育課

T E L : 029-301-5260

M A I L : kokyo@pref.ibaraki.lg.jp

U R L : <https://kyoiku.pref.ibaraki.jp/gakko/highschool/>



多彩!教室で活躍するJET-ALT

取組の主体			取組の対象				地域の国際化			特色ある取組				
JET-ALT	任用団体	CIR等との連携	児童・生徒 未就学児 小学 中学 高校				教員	住民	異文化理解	地域活性化	多文化共生	長期休業中の取組	配置の工夫	デジタルツールの活用

No.10 JET-ALTの複数人配置を通じた英語力向上の取組

実施時期：平成25年度～現在
任用団体名：東京都

取組のポイント

- JET-ALTを複数人配置して、授業内外での活用を拡大。
- JET-ALTとの交流が増えることで、生徒の意欲や英語力が向上。

任用団体の基本情報

人口：14,063,564人 ※令和5年4月1日現在
JETプログラム参加者の人数：(ALT) 240人 (CIR) 1人 (SEA) 0人
学校数：高等学校184校、中等教育学校5校、中等教育学校附属小学校1校

取組の背景・課題

- ・ 東京都では、平成25年度からJETプログラムを活用し、東京都立高等学校等のコミュニケーション機会の増加を図り、「使える英語力」の育成を推進してきた。平成27年度には、全ての東京都立高等学校及び東京都立中等教育学校後期課程に1名を配置した。
- ・ 1名配置では、「授業内での活用において、学年・教科・科目及び活用方法が限定的」「授業外活用において、関わる生徒が限定的」という課題がある。そこで東京都教育委員会は、令和5年度以降、JETプログラムに関係した予算を拡充し、全校2名以上配置を予定している。
- ・ 英語教育や国際教育に係る指定校等の2名配置を継続してきた都立高校等では、各校における様々な創意工夫により効果が表れているので、次の「取組の内容」にその1校を紹介する。

取組の内容

2名配置の都立高校等の取組の中から東京都立大田桜台高等学校の事例を紹介する。

(1) 学校の特徴

- ・ 令和4年度より3年間の指定となる*Global Education Network 20指定校
*東京グローバル人材育成指針に基づく先進的な取組を推進する学校
- ・ 社会で役立つ英語とビジネスを学ぶ都立高等学校 ビジネスコミュニケーション科

(2) 取組の内容

ア【授業における多読、JET-ALTによる読み聞かせ】

- ・ 図書室には幅広いジャンルの13,000冊以上の英語の本があり、授業で多読を行っている。
- ・ 英語に親しめるよう、JET-ALTによる絵本の読み聞かせを定期的実施している。
- ・ 季節ごとにJET-ALTが選定した「おススメの本」コーナーを図書室で展示している。JET-ALTが制作したクイズやゲームも併せて展示し、生徒の積極的な参加を促す。

取組の内容（続き）



読み聞かせの様子



図書室内の様子



校内の展示

イ【JET-ALTによる掲示板の作成】

- 授業以外の学校生活におけるコミュニケーションを重視し、JET-ALTが文化祭や卒業式などの行事に積極的に関与している。
- JET-ALTが主体となり、学校行事をJET-ALTの視点から紹介した掲示物を作成し、校内に展示している。

ウ【JET-ALTによるコンテスト運営】

- 全員が授業で発表活動を行い、その決勝戦として、Graduation Speech、Book Talk等をテーマとする校内スピーチコンテストを各学年で年1回開催している。
- 令和4年度からJET-ALTが英語科の教員と共に主体的に運営している。（練習指導、パンフレット作成、タイムスケジュール管理、表彰等）

取組の成果・今後の展望

- JET-ALTを2名等複数配置にすることで、授業内での活用において、学年・教科・科目・及び活用方法の幅、範囲等を広げることができる。
- 授業外での活用において、多くの生徒との関わりをもつことができる。
- 今後、放課後の英会話教室や英語による季節ごとのイベントの実施、JET-ALT間の相談・協力体制の構築など、JET複数配置校の好事例等を収集するとともに、その成果を広く発信することで、全都立校に普及し、「使える英語力」の一層の充実を図る。

【東京都立大田桜台高等学校 JET-ALT 2名配置による成果】

- 中学校では英語を苦手としていた生徒も多いが、JET-ALTが日頃から授業内外で親身に対応することで、生徒は徐々に英語に親しむことができています。
- 1年時終了時点に開催したBook Talk コンテストでは、JET-ALTの事前指導等により各クラスの代表生徒が堂々と英語で発表することができるようにまで成長している。
- JET-ALTによる生徒や学校への積極的な関わりのおかげで、語学学習や国際理解教育の環境をより良いものにすることができています。

問合せ先

担当部署名：東京都教育庁グローバル人材育成部国際教育企画課

T E L : 03-5320-6893

M A I L : S0311301@section.metro.tokyo.jp

U R L : <https://global-navi.metro.tokyo.lg.jp/index.html>



多彩!教室で活躍するJET-ALT

取組の主体			取組の対象				地域の国際化			特色ある取組				
JET-ALT	任用団体	CIR等との連携	児童・生徒 未就学児 小学 中学 高校				教員	住民	異文化理解	地域活性化	多文化共生	長期休業中の取組	配置の工夫	デジタルツールの活用

No.11 JET-ALTの常駐による特色ある小学校づくり

実施時期：令和4年～現在
任用団体名：富山県立山町

取組のポイント

- 全校65名の立山町立釜ヶ淵小学校において、毎日JET-ALTが常駐し、外国語の授業だけでなく体育や図工などの教科にも参加。
- 学校の特色化に加え、子どもたちに気軽に英語や異文化に触れる機会を提供。

任用団体の基本情報

人口：25,021人

※令和5年4月1日現在

JETプログラム参加者の人数：(ALT) 5人 (CIR) 0人 (SEA) 0人

学校数：小学校6校、中学校1校

取組の背景・課題

釜ヶ淵小学校地区では、学校統廃合を危惧する地域住民や保護者の思いがあり、学校の存続を求める声が続いていた。そのような中で、当該小学校にJET-ALTを1人常駐させることで、特色のある学校にすることができるのではないかと町長による提案により、本取組が実現した。

町では、小学校に2人、中学校に3人のJET-ALTを配置しており、5人全員が小学校6校を巡回する手厚い体制で外国語指導を行っている。こうした中、学校の存続に加え、児童が同じJET-ALTと過ごすことで学校生活をより楽しく送ることができると考え、JET-ALTのうち1人が釜ヶ淵小学校に常駐するよう、学校や教育センターとの調整を行った。

取組の内容

常駐するJET-ALTは、以下のようなシフトで授業、委員会クラブ活動等に取組んでいる。

- ・月曜日：6年生の家庭科、3・4年生の体育、2年生の図工
- ・火曜日：3～6年生の外国語、2年生の生活科
- ・水曜日：3・4年生の体育、1年生の図工、5・6年生の体育、委員会クラブ活動
- ・木曜日：朝の体操、別の小学校3年生の外国語
- ・金曜日：別の小学校3・5年生の外国語、5・6年生の外国語

シフトを組むに当たっては、他の町内JET-ALTと比較して、授業時数及び巡回する学校数が極端に少なくならないよう配慮した。

取組の内容（続き）

本取組を実施するに当たり、小学校や周囲のJET-ALTに前向きに協力してもらう観点から、以下のような工夫をした。

- ・前述のとおり、他の町内JET-ALTと比較して、常駐するALTが極端に授業時数や巡回校が少なくならないよう、町教育センター・学校と調整を行った。

- ・別の学校へ移動する日は、常駐するJET-ALTに給食を早めに取りってもらうようお願いした。

- ・必要に応じ木曜午後3時から約1時間、町内JET-ALT、町教育センター、教育委員会で（必要に応じて町英語専科講師も含めた）ミーティングを行い、情報共有を行うことで、各ALTの悩み・相談を聞いている。

- ・ミーティングを行う中で、別の小学校での授業の打合せを行う時間が取れないと常駐JET-ALTから相談があった。授業の素案をFAXで送ってもらい、それを打合せ代わりにする案を試したところ、スムーズに行えたため、現在も行っている。

- ・学校にJET-ALTが1人常駐する話を伝えた際は、「どのようにJET-ALTを活用してよいかわからない」という意見があったが、今では休み時間や給食も児童と一緒に過ごすなど、積極的に活用してもらっている。



校外学習に参加している様子



授業を英語で伝えている様子

取組の成果・今後の展望

本町では、令和4年度から初めての試みとして、JET-ALT 1人を小学校へ常駐させる取組を約半年行ってきた。

外国語の授業や活動は小学3～6年生が対象になっているが、本取組では小学1・2年生に対しても、気軽に異文化に触れる機会を提供できているところが魅力的である。また、休み時間や給食など、同じJET-ALTと共に日常生活を過ごすことは、児童にとって学校生活の楽しみの一つとなっており、児童とJET-ALT双方にとって充実した取組となっている。

今後もこの取組を継続し、JET-ALTを通じた児童の異文化交流を深めていきたいと考えている。

問合せ先

担当部署名：富山県立山町教育委員会学校教育係

T E L : 076-462-9981

M A I L : kyouiku@town.tateyama.toyama.jp

U R L : <https://www.town.tateyama.toyama.jp>



多彩!教室で活躍するJET-ALT

取組の主体			取組の対象				地域の国際化			特色ある取組				
JET-ALT	任用団体	CIR等との連携	児童・生徒 未就学児 小学 中学 高校				教員	住民	異文化理解	地域活性化	多文化共生	長期休業中の取組	配置の工夫	デジタルツールの活用

No.12 現場のニーズとALTのスキルのコーディネート

実施時期：令和4年4月～現在
任用団体名：広島県神石高原町

取組のポイント

- ALTの英語以外の授業への参加により、多様な視点や価値観に触れる異文化交流や、日常的な英語コミュニケーションの機会を創出。
- ICTを使った掲示板的作成、オンラインでの教材共有、教育分野における翻訳業務等、現場のニーズに合わせてALTのスキルを幅広く活用。

任用団体の基本情報

人口：8,166人

※令和5年4月1日現在

JETプログラム参加者の人数：(ALT) 2人 (CIR) 0人 (SEA) 0人

学校数：小学校5校、中学校2校

取組の背景・課題

英語教育推進が町の重要施策である本町では、JET-ALTを含むALT 3人が各学校に週2日勤務していた。しかし週に行う授業数は決まっているため、十分な活用が進んでいなかった。また、児童生徒・学校、ALTから英語教育等に関する要望等をヒアリングする機会も少なく、学校現場のニーズとALTのスキルが結びついていなかった。そこで、以下のとおり課題を整理した。

- ・ 学校のニーズの把握とALTが持つスキルをより活用するためのコーディネート
- ・ 教員の求める教材作成
- ・ 外国籍保護者向け就学相談、就学援助等について英語での情報提供等

取組の内容

ニーズを把握するため、生徒には英語暗唱大会（7月）実施時に選択及び自由記述で、教員へは2学期終了後にグーグルフォームを活用したアンケートを実施した。

ALTに対しては、町教育委員会の担当者が月例会議において、英語によるヒアリングを行い、相談しやすい場を設定した。また、学校のニーズとALTの幅広いスキル活用のコーディネートをするため、以下の取組を実践した。

- ・ 各校において、外国語以外の授業にALTが参加。異なる視点や価値観の意見に触れる異文化交流や、教科書以外の日常英語を使う機会を増加
- ・ ALT作成の教科書単元ごとの教材や音源等をオンラインで共有
- ・ 会話練習ができる電子掲示板をALTが設置
- ・ ALTを講師とした小学校教員の外国語研修を実施
- ・ 就学援助及び就学相談の説明資料等作成、町HPの翻訳

取組の内容（続き）

苦労した点としては、一部にALTの他教科への参加を不可とする学校があり、継続的にお願いをしたものの、実施に至らなかったケースもあった。児童生徒の機会平等の観点から、すべての学校に理解してもらえるよう、ALTの他教科への参加によるメリットをわかりやすい好事例集としてまとめて示すなど働きかけの工夫が必要である。

一方で、サッカーの得意なALTが体育や運動会等で児童生徒の憧れの存在になったり、道徳の時間に異なる意見交流を図るなど、各教科でALTの得意分野を活かす学校では、次年度のALT配置をさらに1日増やしてほしいという要望がある等、児童生徒の学校生活に多様性の学びの場が根付いてきている。

6/28(水)	6/29(木)	6/30(金)
ケビン	ホーストン	エミリー
		6年 外国語
3.4年 Art and Civ 図工	5年 外国語	
5.6年 Home Economics 家庭科		1年 英語
5年 English 外国語	1年 図工	1年 生活
1年 Japanese 国語	6年 外国語	2年 英語
5.6年 Calligraphy 毛筆	3.4年 図工	

ALTの他教科への参加状況



電子掲示板を紹介している様子

取組の成果・今後の展望

成果

- ・ 道徳の授業等では、異なる視点や価値観に触れる意見交流の場ができています。
- ・ ALTが参加する授業等では、児童生徒が自然に英語で発言する場面が増えています。
- ・ 児童生徒と過ごす時間が増えることにより、ALTと児童生徒の関係づくりが深まっています。
- ・ 就学時等に、外国籍の保護者に必要不可欠な情報を英語で詳しく提供できています。

今後の展望

- ・ 保育所から中学校までの子どもの日常生活の異文化理解、国際交流、英語を話す機会が増える町を目指していきたい。
- ・ 1日の学校生活を英語で体験するPR動画をALTと作成し、姉妹校へ生徒が訪問する際に上映したい。また、スピーチコンテストやオーストラリア研修等に向けたALTによる英語指導など、学校のニーズに合わせてALTのスキルの活用を一層進めたい。

問合せ先

担当部署名：神石高原町教育委員会教育課

T E L : 0847-89-3341

M A I L : jk-gakkyo@town.jinsekikogen.hiroshima.jp

U R L : <http://www.jinsekigun.jp/town/formation/kyouiku/kyouiku/gakkou/>



多彩!教室で活躍するJET-ALT

取組の主体		取組の対象				地域の国際化			特色ある取組				
JET-ALT	任用団体	CIR等との連携	児童・生徒 未就学児 小学 中学 高校			教員	住民	異文化理解	地域活性化	多文化共生	長期休業中の取組	配置の工夫	デジタルツールの活用

No.13 特別支援学校における 外国語教育の充実等に資する取組

実施時期：令和4年～現在
任用団体名：神奈川県

取組のポイント

- 特別支援学校に在籍する児童・生徒一人ひとりが、自身の抱える障がい等にかかわらず、楽しみながら英語の学習に取り組めるようにしている。
- 学校とJET-ALTが連携して教材や授業づくりを行い、楽しく安全に広い世界のことについて学習できる環境を提供している。

任用団体の基本情報

人口：9,222,108人

※令和5年4月1日現在

JETプログラム参加者の人数：(ALT) 2人 (CIR) 0人 (SEA) 0人

学校数：中学校2校、高等学校137校、特別支援学校29校

取組の背景・課題

神奈川県立総合教育センターでは昭和62年からJET-ALTを任用している。本県では、特別支援学校に在籍する生徒が、実際に外国人と交流する機会を十分に確保できていないという課題があった。また、JET-ALTの人数が少ないため、その存在が十分に知られておらず、英語教育の人材としてうまく活用できていなかった。

そこで特別支援学校への派遣を行うとともに、ユニバーサルデザインに基づいた教材・授業づくりに着手した。

取組の内容

<特別支援学校への派遣>

- JET-ALTの派遣は、小学部から高等部まで幅広く、県内各地の支援学校計7校に37回にわたって派遣を行った。
- 授業では、児童・生徒と英語で会話することはもちろん、英語を用いたゲームやプレゼンテーションなど様々な学習活動に実際に参加するなどJET-ALTが積極的にコミュニケーションを図るよう努める。
- 海外の世界へと視野を広げられるよう、世界の各所を紹介するスライドなどを通じて、異文化交流の機会を積極的に提供している。
- 教員との調整や授業中のコミュニケーションに向けて、JET-ALT自ら日本語を学ぶなどして、言葉の壁を乗り越えている。

取組の成果・今後の展望

定量的な効果測定は行っていないため、客観的に成果を示すことはできないが、特別支援学校の児童・生徒たちからの“thank you cards”には、子どもたちがJET-ALTとの英語の授業を楽しんでいることが十分に伺える。

今後は、特別支援学校以外の学校でも、このような機会を増やすことができるよう広報の仕方を検討していきたい。



神奈川県立三ツ境養護学校高等部
3年生からの手紙



神奈川県立茅ヶ崎養護学校小学部
5年生からの手紙



神奈川県立緑養護学校からの
ウェルカムポスター

問合せ先

担当部署名：神奈川県立総合教育センター教育事業部
教育人材育成課キャリア推進班

TEL：0466-81-1635

URL：<https://www.pen-kanagawa.ed.jp/edu-ctr/>



取組の主体			取組の対象				地域の国際化			特色ある取組				
JET-ALT	任用団体	CIR等との連携	児童・生徒				教員	住民	異文化理解	地域活性化	多文化共生	長期休業中の取組	配置の工夫	デジタルツールの活用
			未就学児	小学	中学	高校								

No.14 韓国人高校生とのオンライン交流企画

実施時期：令和3年～現在
任用団体名：鳥取県

取組のポイント

- 韓国語選択の生徒と、第二外国語として日本語を学ぶ韓国人高校生が、掲示板サイトを通じて交流。手紙、プレゼントの交換を経て、学年末にオンライン交流を実施。
- 言語だけでなく、日本と韓国の習慣の違いなど、異文化理解への理解を深める。

任用団体の基本情報

人口：539,190人

※令和5年4月1日現在

JETプログラム参加者の人数：(ALT) 25人 (CIR) 2人 (SEA) 0人

学校数：高等学校24校、特別支援学校8校

取組の背景・課題

本校では隔年で韓国語選択者による韓国への研修旅行を実施しているが、ここ数年は新型コロナウイルス流行の影響で中止が続いた。

そこで、実際に習った言語でコミュニケーションをとる機会を増やすために、JET-ALTの母校の教員、また以前に交流を通じて知り合った韓国の日本語教員と連絡を取り、交流活動を開始した。

取組の内容

交流の内容は以下のとおりである。

- 生徒は日本人にとって当たり前のことには着眼しにくい傾向にあるため、全ての活動に際し、JET-ALTが韓国人として日本に対し気になっていること、知りたいこと、韓国との相違点などを事前に生徒に伝え、ヒントを与える。
- Padlet（写真、動画投稿型掲示板）を通じて互いの国の生活や文化を紹介し、より身近な話題を提供する。
- 韓国人生徒と日本人生徒のペアを作り、年に2度、手紙、写真及びプレゼントの交換を行う。手書きの文字に触れることのできる貴重な機会でもあり、教科書には出てこない呼称、話し言葉の学習にもつながっている。JET-ALTの発案で、交流校として地域限定の菓子やグッズを交換し合い、生徒に還元している。

取組の内容（続き）

- 手紙やプレゼントを開封するときの様子、自分のペアに対しての挨拶を同時に撮影し、双方で交換している。
- 学年末にオンライン交流を行う。ペアの生徒と実際に会話を交わすことのできる機会を設けることで、さらなる韓国語学習へのモチベーション強化を目的としている。交流に先立ち事前学習を行い、交流中にする質問等はあらかじめある程度決めておき、JET-ALTの助けを借りながらスムーズに質問、回答できるように準備しておく。オンライン交流は双方の地域紹介のプレゼンテーションから始め、質問のやり取りやタブレットを持ち歩いての学校紹介も含む。



韓国人生徒からのプレゼント開封の様子



韓国人生徒とのオンライン交流の様子

取組の成果・今後の展望

生徒にとってはコミュニケーションをとる相手が大人ではなく、自分と同じ年代の高校生であるため、等身大の姿でやり取りできると好評である。言語だけでなく、特に文化面での収穫が大きい。単発での交流は多く行われており、本校も参加してきたが、一年を通して同じ相手と交流を続けることで、より深い学びへとつながっている。また、同じ規模の地域と交流することで生徒同士がより身近に感じられ、JET-ALTの出身地を選択することでより関心が高まるといった効果が見られた。

指導する側にとっても、普段意識しない日本人にとって当たり前の習慣が外国人にとっては異文化と感じられることなど、多くの気づきがある。

生徒は交流に対し非常に積極的で、特にオンライン交流では教員やJET-ALTの手を離れ、自由にやり取りする姿が散見できた。卒業後も個人的にやりとりを続けている生徒も多く、今後もより絆が深まるような交流を継続していきたい。

問合せ先

担当部署名：鳥取県教育委員会事務局高等学校課市指導担当

T E L : 0857-26-7786

M A I L : koutougakkou@pref.tottori.lg.jp

U R L : <https://www.pref.tottori.lg.jp/koukou/>



取組の主体			取組の対象				地域の国際化			特色ある取組				
JET-ALT	任用団体	CIR等との連携	児童・生徒 未就学児 小学 中学 高校				教員	住民	異文化理解	地域活性化	多文化共生	長期休業中の取組	配置の工夫	デジタルツールの活用

クリエイティブ・ライティング

実施時期：令和4年～現在
任用団体名：東京農業大学第二高等学校



Federbush Saya Danielle さん

取組のポイント

- クリエイティブ・ライティングとは、通常のアカデミック・ライティングの枠を超えてフィクションを創作する活動のこと。
- オリジナルのストーリーやキャラクターを生み出し、比喩的な表現を用いることで、生徒に想像力と創造力を身につけさせる。
- 高校2年生の英語の授業（50分）において、クリエイティブ・ライティングの概要と手法を教授し、生徒が実際にフィクションを創作。

任用団体の基本情報

生徒数：1,664人

※令和5年3月31日現在

JETプログラム参加者の人数：（ALT）1人

取組の背景・課題

クリエイティブ・ライティングとは、生徒の想像力と創造力を開発する文章作成である。クリエイティブ・ライティングを教えることにしたのは、日本の学校の英語カリキュラムでは通常扱われないトピックだからである。私の受け持つ生徒たちは、クリエイティブ・ライティングという言葉聞いたことがないと言い、もっと学びたいと言っていた。

アメリカの教室では、クリエイティブ・ライティングは幼少期から教えるのが一般的である。クリエイティブ・ライティングを通じて、生徒が楽しみながらオリジナルの世界観やキャラクターを想像することで、より多くの語彙と文体で表現方法を考えるようにすることをねらいとした。クラスメート同士が互いの興味や関心事をより深く知るきっかけにもなった。

取組の内容

【導入の経緯と準備】

- JET-ALTが発案。
- 着想は令和3年、JET-ALTに着任する7か月前。
- 教材は自分自身がアメリカの高校生時代に学んだことを思い出しながら、自分でPowerPointを作った。ネット上の素材は使用しなかった。
- 日本人英語教員とカリキュラムの作成と授業の進め方について議論・調整した。



授業の様子

取組の内容（続き）

【授業の流れ】

① ウォームアップ／グループストーリーを書く（10～15分）

生徒たちをグループに分ける。絵を見せ、その絵の背景となるストーリーを英語で考える。このとき、教室内を巡回し、文法やスペル、発音についてグループをサポートするとよい。

② グループ発表（10分）

クラスの前でストーリーを発表する。発表方法は自由で、スキットを作る生徒もいた。発表が苦手な生徒もいるかもしれないが、人前で話すのに慣れるように、グループ発表の機会を多く設けるとともに、グループ全員が発表できるように配慮した。

各グループの発表後、簡単な英語で彼らのストーリーを再確認して、クラスメートが聞き取れなかった部分や、文法の間違いを訂正した。

③ フィクションについての学習（10分）

様々なジャンルのフィクションについて、各ジャンルの有名な物語を例示しながら教える。その後、フィクションを創作する際の構成を教え、私が例として構想したストーリーを共有した。

④ クリエイティブ・ライティングの実践（15～20分）

授業の最後の15～20分間は、自分たちの物語を書く時間とした。

【指導上の注意点】

- 多くの生徒が初めて創造的な文章を書くので、想像力豊かなアイデアや説明的な言葉を書くのに役立つ辞書を持たせた。
- 生徒たちはそれぞれiPadを持っているので、すぐに翻訳アプリに頼ってしまい、自分たち自身の力で日本語から英語へとストーリーを作っていくことができなかったことが、この授業を実施する上で難しかった点である。

取組の成果・今後の展望

生徒が書いた物語をすべて集めて読んだが、生徒が自分たちでキャラクターやプロットを考え、創造性を発揮していることに驚いた。このアクティビティは、よりカジュアルで楽しい方法で英語に触れることができ、かつ、生徒たちの英語知識の限界を超え、自分の考えを伝えるための新しい方法を考えるきっかけを与えることができた。（その多くは、これまでの授業で習わなかったトピックに関するものだった）

多くの生徒が「この授業が好きだ」と言ってくれたこと、英語で文章を書くということに関して、より自由に主体性を発揮できたことは刺激的だった。もっと授業があれば、有名な英文小説のストーリーを読んで分析し、人物像やテーマ、比喩的な表現について話したかった。

問合せ先

担当部署名：東京農業大学第二高等学校事務室

T E L : 027-323-1483

M A I L : zimubu@mail.nodai-2-h.ed.jp

U R L : <https://www.nodai-2-h.ed.jp/>



取組の主体			取組の対象				地域の国際化			特色ある取組				
JET-ALT	任用団体	CIR等との連携	児童・生徒 未就学児 小学 中学 高校				教員	住民	異文化理解	地域活性化	多文化共生	長期休業中の取組	配置の工夫	デジタルツールの活用

メールを通じた国際交流プログラム

実施時期：令和3年～現在
任用団体：京都府



Erick Chen さん

取組のポイント

- 福知山高等学校と附属中学校の2人のJET-ALTが、アメリカの学校との間でメールを通じた交流プログラムを考案。
- 日本とアメリカの生徒（中学1年生～大学生）がペアを組み、日英の両言語でメールを交換することで、交流しながら語学力を涵養。

任用団体の基本情報

人口：2,537,860人

※令和5年4月1日現在

JETプログラム参加者の人数：(ALT) 32人 (CIR) 2人 (SEA) 0人

学校数：中学校4校、高等学校46校、特別支援学校12校

取組の背景・課題

私たちは、生徒が他国の同年代の生徒と、日常の実践的なコミュニケーションを行うことで、よい効果が得られると考えた。そうすることにより、生徒のモチベーションが高まるとともに、異文化理解の場として機能し、また、語学力を実践するアウトプットの機会の少なさを埋め合わせることができる。

加えて、同年代の生徒と交流することで、実際に学んだ外国語を使うことができ、外国語学習をより楽しむことができると考えた。

取組の内容

私たちは、アメリカ・ワシントン州の学校でこのような交流に興味がある学校がないか、ワシントン州日本語教師会に問い合わせた。すると、すぐに数件の返信があったため、紹介されたワシントン地域の学校の日本語教師に個人的にコンタクトを取った。また、知り合いの日本の大学の先生方にも声をかけた。現在、生徒の中には、大学生とメール交換を行っている者もいる。

もしこのような取組に興味を持つJET-ALTがいたら、地元の日本語教師協会に声をかけてみるのを勧めます。自分の出身高校や大学にも声をかけてみると、このような交流を始めることが出来るかもしれない。

・メール交換の方法

生徒はまず紙に手紙を書き、JET-ALTはその写真を撮ってアメリカにメールで送る。また、アメリカの生徒が書いた手紙を現地の教員に渡し、教員が写真を撮って日本にメールで送り返すこともある。こうすることで、教師が手紙の内容をできるだけだけでなく、例えば手紙にイラストを描くなど、生徒も創造力を発揮することができる。手紙は通常、日本語と英語の両言語で書かれているので、双方の生徒がそれぞれの学習対象の言語で文章読解の練習をすることができる。

取組の内容（続き）

• 生徒のペアリング

生徒のペアを組む際には、事前にアンケートで、生徒が一般的にどのようなテーマ（音楽、旅行、学校生活など）について書くことに興味があるかを調査し、同じような興味を持つ生徒とペアになるようにする。そうすることで、生徒はよりたくさん文章を書くことができると考えられる。

• 送受信の記録

JET-ALTは、Google Sheetsを利用し、メール（手紙）の送受信を記録している。例えば、どの生徒がどの学校のどの生徒とペアを組んでいるかというチャートを作成する。また、両学校間で送られたメール（手紙）の数をマスターチャートとして持っている。こうすることで、取組の状況が整理され、どのペアをフォローアップすればいいのかがわかりやすくなる。

• 注意すべき点・課題：

学事暦が異なるため、メール（手紙）の受信と送信の期間を調整するのが難しい場合がある。例えば、アメリカでは夏季休暇でも、日本ではまだ授業期間の場合がある。そのため、どの時期にメール（手紙）のやり取りの頻度を少なくするかなど、関係者間でコミュニケーションをとって決めることが重要である。

取組の成果・今後の展望

現在、日米両国で60名以上の参加者がおり、日本側は中学1年生から高校3年生まで、米国側は中学1年生から大学生までの生徒が参加している。日本のアイドルが好きという共通の話題で盛り上がるなど、同年代の仲間との交流が生まれ、長続きしている。

また、メール交換プログラムのパートナー校とZoomを利用したオンライン交流会を実施したところ、生徒たちは、それぞれの学校生活について楽しく話していた。更なる交流の発展のため、今後も再び、Zoomによるオンライン交流会を開催し、パートナー校の生徒とバーチャルに交流することも考えてる。

また、より多くの交流の場を提供するために、デジタル黒板（Padlet）、ビデオ会議など、将来の交流方法について検討したい。

問合せ先

担当部署名：京都府教育庁指導部高校教育課

T E L : 075-414-5849

M A I L : koukyou@pref.kyoto.lg.jp

U R L : <http://www.kyoto-be.ne.jp/koukyou/cms/>

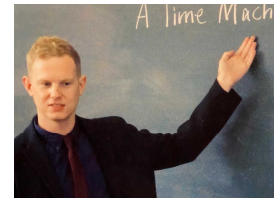


取組の主体			取組の対象				地域の国際化			特色ある取組				
JET-ALT	任用団体	CIR等との連携	児童・生徒				教員	住民	異文化理解	地域活性化	多文化共生	長期休業中の取組	配置の工夫	デジタルツールの活用
			未就学児	小学	中学	高校								

教職員向け英会話教室

「イングリッシュ・カフェ」

実施時期：平成30年～令和2年
任用団体名：熊本市



Bailey Gaudin さん

取組のポイント

- 同僚教職員との交流を深めるとともに、教室の内外で英語力の向上に貢献するために、ベイリーのイングリッシュ・カフェ（BEC）を開催。
- BECについてポスターやパンフレットを作成し、職員室の壁に掲示などを行った。

任用団体の基本情報

人口：729,058人

※令和5年4月1日現在

JETプログラム参加者の人数：（ALT）54人（CIR）4人（SEA）0人

学校数：小学校92校、中学校42校、高等学校2校、特別支援学校2校

取組の背景・課題

勤務している小学校では、英語に高い関心を持ちながらも英語学習の始め方に迷っている教職員が多かった。

同僚教職員との交流を深めるとともに、彼らの英語力向上を支援する目的で、私がJET-ALT 1年目の時にベイリーのイングリッシュ・カフェ（BEC：Bailey's English Cafe）を提案した。

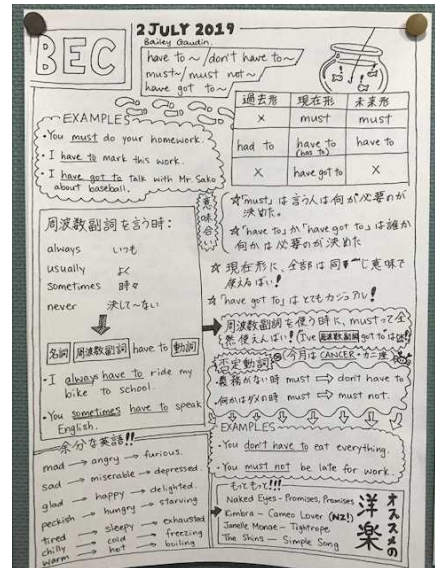
毎週火曜日の午後4時～5時に、参加したい教職員と時間のある教職員のために開催した。

取組の内容

- 毎週火曜日の午後4時～5時に、参加できる教職員を対象に学校の図書館で開催した。
- BECは会話に重点を置いた内容で、教職員の興味を反映したテーマ（旅行先での食事の注文、健康と身体、音楽など）に関する簡単な文法やフレーズも教えた。
- 基本的に授業や資料の準備はすべて自分で行い、可能なときに英語専科の教職員に意見をもらった。
- 参加したくてもできない教職員のために、BECの情報をA4サイズのポスターやパンフレットにして、「英語通信」のような形で職員室の壁に掲示したり、教職員がコピーして持っていけるように、私の机の上にも置いていた。

取組の内容（続き）

- 私は美術が得意なため、ポスターやパンフレットは手書きで作成した。日本語の文章を練習するよい機会となった。
- ポスターの作成にパソコンを使わないことで、授業がない日や用事がないときに自宅や他の学校に持ち帰って作業することができたが、パソコンを業務時間外も自由に使用できるのであれば、より簡単に作成できたと思う。
- 辞書や翻訳アプリの使用は禁止し、自分自身や他の人に尋ねるよう促した。質問された人も学習できる機会となる。
- BECの時間には、リラックスして参加してもらえよう心掛けた。
- レッスンの終盤には、質問タイムや、英語で知っていること・学んだこと（例：おすすめの英語の歌、時事問題など）を共有した。翌週のテーマを決めて、もっと学びたいこと、練習したいことがあれば話し合った。
- 教職員が忙しくなると、継続して実施することが難しくなり、なかなか再開できないこともあった。



JET-ALTが作成したポスター

取組の成果・今後の展望

参加した教職員は、自分の英語力に自信を持つようになった。教職員は、私と一緒に授業をするときや生徒の英語活動をサポートするときに、英語を使う頻度が増え、生徒もその恩恵を大いに受けることができた。

私はこのアイデアを熊本市内の他のJET-ALTとも共有し、それぞれの学校の教職員と仲良くなりながら英語学習を手助けする方法について話し合っている。

その影響からか、他の学校でも昼休みに同じ様なイングリッシュカフェが開催されている。生徒がJET-ALTと直接会話したり、授業で習った英語を練習したりできるようにしている。

問合せ先

担当部署名：熊本市教育委員会指導課

TEL：096 328 2721

MAIL：kyouikushidou@city.kumamoto.lg.jp

URL：https://www.city.kumamoto.jp/hpkiji/pub/List.aspx?c_id=5&class_set_id=3&class_id=825



輝く!地域へ飛び出すJET-ALT

本章では、教室から一歩踏み出して、地域で活躍するJET-ALTの取組を掲載する。地域活性化や多文化共生など、地域の国際化に資する取組を中心に紹介する。

輝く!地域へ飛び出すJET-ALT

取組の主体			取組の対象				地域の国際化			特色ある取組				
JET-ALT	任用団体	CIR等との連携	児童・生徒 未就学児 小学 中学 高校				教員	住民	異文化理解	地域活性化	多文化共生	長期休業中の取組	配置の工夫	デジタルツールの活用

No.15 新潟県立国際情報高等学校とIUJ（国際大学）との「かけはし」プロジェクト

実施時期：令和4年
任用団体名：新潟県

取組のポイント

- 新潟県立国際情報高等学校（以下「国際情報高校」）の生徒が取り組んだ探究活動（かけはしプロジェクト）において、配置校JET-ALTとして生徒の活動を支援するとともに、生徒が企画した交流イベントに参加して国際交流の一端を担った。

任用団体の基本情報

団体の人口：2,135,036人 ※令和5年4月1日現在
JETプログラム参加者の人数：（ALT）25人 （CIR）0人 （SEA）0人
学校数：高等学校80校、中等教育学校6校、特別支援学校24校

取組の背景・課題

南魚沼市浦佐には、アジア各国からの留学生が学ぶ国際大学という大きな異文化コミュニティがある。また、そのすぐ近くには国際社会で活躍できる人材の育成を目指す国際情報高校が設置されている。しかし、互いが交流する機会は少なく、2つの教育機関が近くに共存している利点を生かし切れていない面があった。

国際情報高校において学校評議員会を開催した際、国際情報高校と国際大学とが連携することで、グローバルな視点に立った地域の活性化につながり、それによる地域社会への貢献を期待する声も聞かれた。

そのような中で、令和4年に国際情報高校2年生の探究学習グループのうちの1班が「かけはしプロジェクト：異文化共生社会の実現」を探究学習のテーマとして設定し、生徒と留学生が交流する方法を模索し始めた。

その後、国際情報高校の生徒が国際大学学生課と連絡をとり、「生徒との交流を通して期待すること」についてアンケートを実施した。すると、学生からレクリエーションや文化的な交流を通して日本語や日本文化を学びたいという声が多く聞かれた。

生徒にも同様のアンケートを実施したところ、生きた英語、多様な英語を学ぶ機会の1つとして、国際大学の学生と交流したいと思っている生徒が多いことが分かった。



英語しりとりでアイスブレイク

取組の内容

留学生との国際交流の流れは以下のとおりである。

- ・ 高校生側が訪問先を選定し、アポを入れて受入の可否を確認する。
- ・ 訪問先が確定したら、国際大学学生課を通して留学生に訪問先の希望を募る。
- ・ 高校生の探究班代表が訪問先に連絡し、具体的な日付や人数の調整を行う。
- ・ 当日、引率教員とともに訪問する。
- ・ JET-ALTは、一連のやりとりにおいて、特に留学生側に配慮すべき事項についてメール文面の作成や会話の支援などを担う。イベントの際は、補助通訳として生徒による運営を支援する。

これまでの訪問先は以下のとおり。

- ・ 地域の日本酒醸造所（新型コロナウイルス感染症の影響でキャンセル）
- ・ 国際情報高校体育館でのバレーボール大会
- ・ 塩沢地区での「雪国ランタン」(国際情報高校2年生が高校生ボランティアとして参加した「LEDライトを用いたエコ・ランタン」を打ち上げるイベント。国際大学の学生を案内し、ランタンにメッセージを書いて共に打ち上げを見届けた。)



バレーボール大会で打ち解けた後の集合写真



ランタン打ち上げの様子

取組の成果・今後の展望

現在のところ、JET-ALTは生徒の探究活動が円滑に進むように英語面での補助や、イベントの運営を手助けするなどしている。また、学校を通じた活動だけでなく、国際大学で開催されるインターナショナル・フェスティバル等にも参加している。

生徒は、「異文化コミュニケーションは相手の文化を尊重する態度が大切だと分かった」「日本語や日本文化について質問されることで自国について学ぶきっかけになった」等、今後の国際交流にますます意欲的である。

一方、国際大学の学生の中にも、「もっと日本語や日本文化を学びたい」「地域と関わることでメンタルヘルスの向上につなげたい」と考える学生がいるため、JET-ALTが日本に住む外国人の先輩として、今後も地域の情報を提供する貴重な存在であり続けることを期待している。

問合せ先

担当部署名：新潟県教育庁高等学校教育課 指導第1係

T E L : 025-280-5611

M A I L : ngt500050@pref.niigata.lg.jp

U R L : <https://www.pref.niigata.lg.jp/sec/kotogakko/>



輝く!地域へ飛び出すJET-ALT

取組の主体			取組の対象				地域の国際化			特色ある取組				
JET-ALT	任用団体	CIR等との連携	児童・生徒				教員	住民	異文化理解	地域活性化	多文化共生	長期休業中の取組	配置の工夫	デジタルツールの活用
			未就学児	小学	中学	高校								

No.16 JET-ALTによる地域紹介動画の作成

実施時期：平成31年～現在

任用団体名：宮崎県宮崎市

取組のポイント

- JET-ALTと中学生が協力して、中学校区の地域の特色ある場所や伝統的行事などを、英語で紹介する動画を作成。
- 外国人からみた地域の魅力を、世界に向けて効果的に発信。

任用団体の基本情報

人口：397,898人

※令和5年4月1日現在

JETプログラム参加者の人数：(ALT) 25人 (CIR) 1人 (SEA) 0人

学校数：小学校47校、中学校25校

取組の背景・課題

本市は「臆することなく外国語（英語）によるコミュニケーションができる児童生徒の育成」のため、2019年度8月からJET-ALTを25名に増員し、市立の全25中学校区に1名ずつ配置し、中学校区の小学校にも派遣している。

増員したJET-ALTを活用して、さらに地域に根ざした外国語教育を実践するため、指導主事の発案により、JET-ALTが中学生と協力して中学校区の地域を紹介する動画を作成している。

JET-ALTとしての視点から、私たちが気付かない地域の良さや魅力を、英語で他国の人々に発信している。

取組の内容

- JET-ALTが中学生と協力して、中学校区の地域を紹介する動画を作成した。
- 動画では、中学生たちが自分たちの住む地域の特色ある場所や伝統的行事を、英語で紹介した。中学生たちは、自分たちの住む地域について、英語を使って他国の人々に紹介・発信することができ、また、地域の良さを改めて知る良い機会となったようである。
- 令和元年度は1つ、令和2年度は2つ、令和4年度は2つの地域紹介の動画を作成した。
- 撮影地の選定は生徒とJET-ALTにより決定し、撮影地との調整は学校職員や市の担当職員が行った。
- 動画の撮影は市のビデオカメラを使って行い、構成や編集はJET-ALTが担った。
- 動画では、生徒が自分たちの住む地域の特色ある場所や伝統的行事を、英語で紹介している。

取組の内容（続き）

- 令和4年度は、地域の特色ある祭りを紹介したいJET-ALTが、地域の団体に本取組の趣旨を説明し、撮影に協力して頂いた。また、地域の偉人を紹介したいJET-ALTの発案により、JET-ALTと一緒に生徒も地域の方から講話を聞く機会を設けることができた。
- 本取組により、地域の魅力を発信するだけでなく、地域との交流も促進することができた。



令和4年度に作成した佐土原中学校区の紹介動画



- 過去の動画
(令和2年度)

安井息軒について
の紹介動画



令和4年度に作成した久峰中学校区の紹介動画



木花中学校区の
紹介動画



取組の成果・今後の展望

JET-ALTが作成した動画は、JET-ALTの外国人の視点から、私たち日本人や、現地の住民が気付かない地域の良さや魅力が英語で紹介されており、世界に向け本市の魅力を効果的に発信することができる。

近年、国のGIGAスクール構想により、児童生徒がタブレットなどのICT機器を活用する機会が増えていることを踏まえ、今後は、生徒自身がICT機器を用いて、地域「FURUSATO」の魅力を外国人に英語で紹介する動画を作成することを予定している。

さらに、作成した動画を発表する場面として、中学生による英語プレゼンテーション大会「Welcome to our FURUSATO presentation contest」を令和5年7月31日に実施予定である。

この大会において、市立中学校25校の代表者5名以内が、『来てみてん、私たちのふるさと』をテーマにプレゼンテーションを行う予定である。

問合せ先

担当部署名：宮崎市教育委員会 宮崎市教育情報研修センター

T E L : 0985-28-2426

M A I L : mcnet@mcnet.ed.jp

U R L : <http://www.mcnet.ed.jp>

動画： <https://www.youtube.com/watch?v=PponiqBcroQ&feature=youtu.be>

<https://www.youtube.com/watch?v=VChULJ6T8m0>



輝く!地域へ飛び出すJET-ALT

取組の主体			取組の対象				地域の国際化			特色ある取組		
JET-ALT	任用団体	CIR等との連携	児童・生徒	教員	住民	異文化理解	地域活性化	多文化共生	長期休業中の取組	配置の工夫	デジタルツールの活用	

No.17 小樽イングリッシュキャンプ (OEC)

実施時期：平成26年～現在
任用団体名：北海道小樽市

取組のポイント

- JET-ALTとの英会話やアクティビティを通して、「生きた英語」を学ぶ機会を提供するとともに、「聞くこと」「話すこと」等を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力の向上を図る。

任用団体の基本情報

人口：107,908人

※令和5年4月1日現在

JETプログラム参加者の人数：(ALT) 5人 (CIR) 0人 (SEA) 0人

学校数：小学校17校、中学校12校

取組の背景・課題

本市に配置されたJET-ALTが中心となり、近隣市町村のALTにも協力いただき、「生きた英語」に触れることを目的に、平成26年から1泊2日で「小樽イングリッシュキャンプ」を実施してきた。市内の小中学校教員も参加し、総勢70人近くの参加者によるプログラムである。

観光都市である本市には、多くの外国人観光客も訪れるが、児童生徒は普段から英語を使って会話をする機会は多くはない。そこで、市内のALTではなく、外国からの観光客を相手に自分たちが考えた小樽のよさを英語でPRする活動を通して、英語力の向上だけでなく、ふるさと小樽を見つめる機会となることを期待して、実施してきた。

取組の内容

(1) コロナ前までの取組

観光都市である本市の特色を生かして、小樽の良さについて英語で話し合ったり、多くの観光客に英語で小樽の良さを伝えたりする活動を設定してきた。

コロナ前は1泊2日の日程で実施していた。チラシを通じて募集した、小学生5年生から中学生3年生まで混合のグループを編成し、ALTとアクティビティをしたり、ゲームをしたりしてきた。初日はアイスブレイクやゲームなどを通して、絆を深めるとともに、外国からの観光客に小樽の良さを伝える内容を考え、実際にスピーチの練習した。2日目の午前中には、観光地である小樽運河周辺にて外国人観光客に小樽の良さをPRする活動を実施した。コロナ前は、多くの外国人観光客を相手に小樽をPRする機会となっていた。



グループ活動の様子

取組の内容（続き）

（2）コロナ禍における取組（令和4年8月4日・5日開催）

令和4年度は実施方法を工夫して3年ぶりに開催することができた。宿泊はせず、半日日程にて、人数も制限した形式で実施した。コロナ前までは総勢70人近くが参加していたが、人数が減った分、ALTとの会話量は増え、「生きた英語」にたくさん触れることができた。また、小学生と中学生の日程を分けて開催したことにより、ねらいが明確になり、児童生徒一人一人に合ったレベルで英語を話すことができた。

今年度は、実際に街頭に出てPR活動を行うことができなかったため、小樽の良さについて英作文を書き、ALTに添削してもらい、発表するという個人の活動が中心であったが、Chromebookを活用し、ALTから添削してもらう時間を十分確保できたことなどから、参加者は質・量とも充実した内容の英文を仕上げ、創意工夫のある発表をすることができた。

また、ALTとの1対1で対話する場面を確保したことは、参加者にとって有意義であった。



閉会式の様子

参加した児童生徒からは、「なかなかALTと会うことができないので、たくさん英会話ができてよかったです。（小学生）」「ふだん外国語の授業とかでしか英語で話したりしていなかったけど、英語で先生と会話することができて楽しかったです。（小学生）」「ALTの先生方から英語の正しい発音やジェスチャーの自然なつけ方などを教わられたので、とてもよい経験になりました。（中学生）」「3時間程度だったけど、時間がいい感じに使えて充実していたので、コロナがなければもっと楽しめたと思います。（中学生）」などという前向きな感想が集まった。

取組の成果・今後の展望

参加した児童生徒だけでなく、ALTたちは、準備段階からアイデアを共有し、役割分担を明確にしながら準備することができた。本プログラムが終わってから、彼らが充実した表情であったことも成果である。ALT5人に対して、小学生の部、中学校の部それぞれ20人程度の児童生徒であったため、アクティビティやゲーム、英会話に集中することができていた。

今後は、外国からの観光客を相手に自分たちが考えた小樽のよさを英語でPRする活動を通して、英語力の向上だけでなく、ふるさと小樽を見つめる機会となることを目的に、さらに多くの児童生徒に参加してもらえるイングリッシュイベントとなるよう実施方法等を検討していく。

また、オンラインやオンデマンド形式など端末を活用した取組は、本市においてどの学校でも普及していることから、今後効果的な活用について検討していきたい。

問合せ先

担当部署名：小樽市教育委員会学校教育支援室

T E L : 0134-32-4111（内線7529）

M A I L : sido-situ@city.otaru.lg.jp

U R L : https://www.city.otaru.lg.jp/categories/bunya/kosodate/gakkokyoiku/kyoiku_iinkai/



取組の主体			取組の対象				地域の国際化			特色ある取組				
JET-ALT	任用団体	CIR等との連携	児童・生徒 未就学児 小学 中学 高校				教員	住民	異文化理解	地域活性化	多文化共生	長期休業中の取組	配置の工夫	デジタルツールの活用

No.18 JET-ALTが高校生を応援！グローバルキャンプ

実施時期：平成30年～現在
任用団体名：神奈川県

取組のポイント

- 英語の学習に対するモチベーションが高く、将来はリーダーとして活躍することを目指す生徒を対象に「グローバルキャンプ」を実施。
- 現代の諸問題を考え、議論し、解決策を見つける学習活動において、JET-ALTは英語での講義や、生徒のプレゼン指導、ディスカッション等を実施。

任用団体の基本情報

人口：9,222,108人 ※令和5年4月1日現在
JETプログラム参加者の人数：(ALT) 2人 (CIR) 0人 (SEA) 0人
学校数：中学校2校、高等学校137校、特別支援学校29校

取組の背景・課題

グローバルキャンプは、国際社会に貢献できる人材の育成を目指して、平成28年に神奈川総合高等学校で初めて開催された、県内外の高校生と留学生のための取組である。

平成30年より、「環境問題」や「教育の不平等」など、世界の諸問題についてより深い議論を行うためにJET-ALTが参加することになった。

平成28年資料：<https://www.kanaloco.jp/special/serial/schoolroom/entry-76165.html>

取組の内容

- 神奈川総合高校研究開発グループの教員が会場や参加者のスケジュールを押さえる。平成28年と令和3年以降は神奈川総合高等学校、平成31年（令和元年）は東京都のオリンピックセンター、令和2年は東京グローバルゲートウェイで実施した。
- 参加者募集は神奈川総合高校研究開発グループの教員が担う。参加者の選抜はせず、希望者は全員参加できる。
- 1日（または2日間）のカリキュラムは神奈川総合高校研究開発グループの教員が作成する。JET-ALTは英語でのプレゼンや生徒とのディスカッションを行う。
- JET-ALTが、世界の様々な問題について講義を行い、生徒はグループでリサーチを進め、解決策を考え、英語でプレゼンテーションをする。
- 令和4年のグローバルキャンプでJET-ALTは「未来の持続可能な食糧」をテーマに講義をし、生徒に対して人口増加と気候変動が同時に進行する中で、食糧を確保する方法についてのリサーチ課題を与えた。

取組の内容（続き）

- JET-ALTは1つのアイデアとして「食用昆虫」を提案し、生徒の試食用として実際に東京都内にある自動販売機「MOGBUG」で購入した昆虫食を持参した。
- 昆虫食を拒絶していた生徒の考え方にも変化がみられ、講義後、昆虫食を社会的に受容する手法を検討していた。



令和4年グローバルキャンプでの
生徒たちの活動の様子

令和4年グローバルキャンプでの
JET-ALTと生徒たちが昆虫食を試
す様子



取組の成果・今後の展望

パンデミックの間もプログラムは継続的に行われており、多くの生徒が参加してきたことから、グローバルキャンプは生徒にとって必要な活動であることが伺える。生徒の英語力だけでなく、批判的かつ世界規模に考える力を伸ばしている。

教室という限られた学習環境から、学習環境を更に広げることにつながると考えている。このような授業以外での訪問をより多くの学校で実施できるよう、広報活動について検討していきたい。

問合せ先

担当部署名：神奈川県立総合教育センター

教育事業部 教育人材育成課 キャリア推進班

TEL：0466-81-1635

URL：<https://www.pen-kanagawa.ed.jp/edu-ctr/>



輝く!地域へ飛び出すJET-ALT

取組の主体			取組の対象				地域の国際化			特色ある取組				
JET-ALT	任用団体	CIR等との連携	児童・生徒 未就学児 小学 中学 高校				教員	住民	異文化理解	地域活性化	多文化共生	長期休業中の取組	配置の工夫	デジタルツールの活用

No.19 夏季休業中の「イングリッシュ・キャンプ」

実施時期：平成26年～現在

任用団体名：新潟県上越市

取組のポイント

- 夏季休業中に、19人のJET-ALTを活用し、中学生を対象に、1泊2日の「イングリッシュ・キャンプ」を実施。
- コロナ禍以前は、妙高少年自然の家を会場にJET-ALTが考案した活動にグループ単位で参加。英語だけの2日間を体験。

任用団体の基本情報

人口：184,082人

※令和5年4月1日現在

JETプログラム参加者の人数：(ALT) 19人 (CIR) 0人 (SEA) 0人

学校数：小学校47校、中学校22校

取組の背景・課題

上越市では、平成3年から学校での英語教育にJET-ALTを活用し始め、児童生徒が自ら積極的にJET-ALTに挨拶したり話しかけたりするようになってきた。しかしながら、普段の生活の中で英語を使う場面が乏しく、学校での学習を活かす機会が不足していた。

そこで、生徒が英語を活用する機会を増やすため、JET-ALTを授業のない夏季休業期間に活用し、希望する中学生を対象にして「イングリッシュ・キャンプ」を市教育委員会が企画し実施することとなった。

取組の内容

- ゲームや遊び、少年自然の家周辺のオリエンテーリング、スポーツ、自国の遊びの紹介、JET-ALTの寸劇、グループごとに練習したパフォーマンス発表など、JET-ALTが考案した活動を実施する。
- 朝はラジオ体操（英語バージョン）に始まり、朝食、昼食、夕食、入浴と生活を共にする。
- スタッフはJET-ALT19人と市教育委員会担当者2人（日本人）である。
- 日本人スタッフは活動中や生活場面でも生徒から距離を取り、生徒とJET-ALTとが接する状況を確認している。
- コロナ禍では、感染予防のため宿泊や食事を共にすることができなかったが、午前中の活動を2日間行った。

取組の内容（続き）

- 初年度は、参加する生徒の中学校の英語教員と市教育委員会担当者をスタッフとしたが、生徒が困ったことがあると教員に助けを求めがちになったり、教員が良かれと思いきずぐに手助けしたりする姿が見られた。
- 2年目からは、教員スタッフを使わず、日本人スタッフは市教育委員会担当者のみとした。生徒は自分たちでJET-ALTとコミュニケーションをとる必要があるため、聞き返したり、ジェスチャーや表情を使って気持ちを伝えたりしていた。
- 例年50人程度の参加者があり、2年目以降はリピーターが2～3割に及んだ。

平成30年度の「イングリッシュ・キャンプ」より



オーストラリアの自然をテーマにした活動に挑戦している様子



カナダの遊びを体験している様子

取組の成果・今後の展望

毎年「イングリッシュ・キャンプ」後に実施しているアンケートでは、参加生徒の9割以上が「自分から挨拶した」「積極的に英語を使った」「相手の言っていることを理解しようとした」などと回答している。また、自由記述では、

- 他校との関わりをもて楽しかったし、なにより英語力がとても身についた。
- 今まで英語を使って人と話すということがあまりなかったけれど、この機会のできたのでよかったです。
- いろいろな国出身の人たちがいたから、その分たくさん外国の文化について知れてよかった。とても楽しかった。

といった感想が集まっており、生徒が英語を使うことに自信をもつ良い機会となったと考えている。

この取組の継続とともに、学校の授業で児童生徒が英語を使う場面を、JET-ALTが工夫し発展させていくことを期待している。

問合せ先

担当部署名：上越市教育委員会学校教育課

T E L : 025-545-9244

M A I L : jecomite@jorne.or.jp（代表メール）

U R L : <https://www.city.joetsu.niigata.jp/soshiki/j-gaku/>



輝く!地域へ飛び出すJET-ALT

取組の主体			取組の対象				地域の国際化			特色ある取組				
JET-ALT	任用団体	CIR等との連携	児童・生徒 未就学児 小学 中学 高校				教員	住民	異文化理解	地域活性化	多文化共生	長期休業中の取組	配置の工夫	デジタルツールの活用

No.20 夏季講座「クリエイティブ・ライティング・キャンプ」

実施時期：令和3年8月
任用団体名：愛媛県西条市

取組のポイント

- 高校生以上をターゲットに、個人が自作の小説を英語で作成し、オリジナリティのある表現力を磨く夏季講座を実施。
- 日本文学と英語圏文学の違いを学ぶことを通じて、各国の文化的背景への理解を涵養。

任用団体の基本情報

人口：104,955人

※令和5年4月1日現在

JETプログラム参加者の人数：(ALT) 5人 (CIR) 1人 (SEA) 0人

学校数：小学校25校、中学校10校

取組の背景・課題

従来の英語教育の下では、生徒の間でテストや受験のための勉強という意識が根強く、主体的な英語運用の面では課題が見られた。そこで、生徒が主体的に英語を運用する機会を創出するため、それぞれの生徒が自ら英語の文章を作成することで、オリジナルな英語の表現力を培う取組を検討した。

当時、NANOWRIMO (National Novel Writing Month「全国小説執筆月間」) というイベントが世界的に広まりつつあったことを受けて、本市のJET-ALTが本市国際交流協会に対して、当該イベントへの応募を目標とする夏季休業中のライティング集中講座「クリエイティブ・ライティング・キャンプ」を提案した。

取組の内容

- 夏季休業中のライティング集中講座「クリエイティブ・ライティング・キャンプ」は以下の内容である。
- 講座開催～2ヶ月前に、本市JET-ALTのAndrewと国際交流協会が中心となり、国際交流協会ホームページやチラシなどで高校生以上を対象として、宣伝した。
- 高校生を中心に15～20人の参加者が集まり、8月に毎週2時間の講義を本市の福祉センターで合計4回実施する予定でした。
- 当時は、コロナ禍であったため、Zoomを利用して、オンライン形式で講義を実施することになった。

取組の内容（続き）

- 講義内容はJET-ALTが考案した。
- ハリーポッターなど、参加者に身近な題材を用いて、英語圏文学の文章の書き方（"He was hot." に対して五感を使った表現の仕方： "His skin sizzled under the summer sun."）などをレクチャーした。
- 数回講座を実施するにあたり、講座を進めながら英語小説が作成できるような進め方（初回はNANOWRIMO・小説についての説明、第2回以降は起承転結・キャラクター、最終回は設定・セリフなど）を実施。
- JET-ALT自身が小・中学校の英語教育に携わってきた経験上、生徒が主体的に英語で表現する機会が極端に少ないという問題意識を有していたため、小説執筆を目指すライティング集中講座を通して、参加者が自ら英語で表現する機会を創出することができた。



オンライン講座の様子



実際の講習資料（小説の構成について）

取組の成果・今後の展望

本講座の参加者の中には、実際にNANOWRIMOへの応募に至った方もいるなど、参加者のライティング・スキルの向上に一定の成果が見られた。

この取組では、小説を題材として英語を表現する機会を創出したが、今後は、アニメを題材にしたり、英語で自分の町を案内してみるなど、別の題材で英語を表現する機会も検討していきたい。

問合せ先

担当部署名：西条市教育委員会学校教育課

T E L : 0897-52-1640

M A I L : gakkokyoiku@saijo-city.jp

U R L : <https://www.saijo-iea.jp/>



輝く!地域へ飛び出すJET-ALT

取組の主体			取組の対象				地域の国際化			特色ある取組				
JET-ALT	任用団体	CIR等との連携	児童・生徒 未就学児 小学 中学 高校				教員	住民	異文化理解	地域活性化	多文化共生	長期休業中の取組	配置の工夫	デジタルツールの活用

No.21 イーハートブの森 ～英語で未来を拓くワークショップ～

実施時期：令和4年5～6月

任用団体名：岩手県

取組のポイント

- 希望する県内の小学生、中学生、高校生が、JET-ALTや参加児童生徒と英語で未来を語り合うワークショップを開催。
- 参加児童生徒の英語力向上を目指すとともに、グローバル意識の涵養、グローバル意識の向上を目指す。

任用団体の基本情報

人口：1,168,771人

※令和5年4月1日現在

JETプログラム参加者の人数：(ALT) 17人 (CIR) 0人 (SEA) 0人

学校数：中学校1校、高等学校63校、特別支援学校14校

取組の背景・課題

東日本大震災津波の発災以降、多くの外国人が岩手を訪れて県民との交流を深めるとともに、本県から多くの児童生徒が海外に招かれるなど、県民が世界とつながる機会が増加している。また、グローバル化や情報化が進展する中、広い視野を持って、岩手と世界をつなぐ人材（グローバル人材）、国際的な視野を持って地域で活躍する人材（グローバル人材）の育成が求められている。ゆえに、本県では国際交流の機会拡充や深化を目指している。

そこで、2015年度（平成27年度）に、岩手県環境生活部若者女性協働推進室との連携により、「希望郷いわてグローバル人材育成事業」の構成事業の一つとして、英語でのワークショップを企画した。現在は、岩手県ふるさと振興部国際室と連携し、「いわての地域国際化人材育成事業」の一つとして実施している。

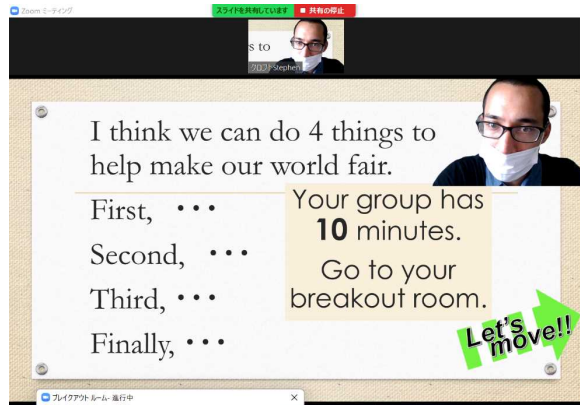
取組の内容

- 岩手県教育委員会学校教育室が中心となって、国際室と連携しながら、3か月かけて、ワークショップの準備を行った。
- 講座開催2か月前に、各学校を通じて県内の児童生徒（小学校5年生～高校3年生）へ事業について周知し、参加募集を行った。その際、市町村教育委員会や私立学校担当課へも事業周知への協力を依頼した。また、岩手県のホームページを活用し、事業について広く宣伝した。
- 令和4年度は、オンライン形式で実施し、ツールはZoomを利用した。5月21日（土）にベーシックコースで2時間、6月25日（土）にアドバンスコースで3時間のワークショップを実施した。

取組の内容（続き）

- CEFRのA1レベルの英語力を目標とする「ベーシックコース」（小学5年生～高校3年生対象）と、CEFRのA2レベルの英語力を目標とする「アドバンストコース」（中学1年生～高校3年生対象）の2コースを用意。中学校1年生～高校3年生まで62人の参加者が集まった。
- 参加児童生徒は、県教育委員会が設定したテーマについて、JET-ALTや他の参加者と英語でディスカッションを行う。テーマは以下のとおり。
 - ①平和について、②世の中にある不平等について

- JET-ALTは、ディスカッションの中で、活発な議論が行われるための雰囲気づくりを行いながら、進行役を担った。また、参加者に質問を投げかけることで、テーマに関する参加者の深い理解と思考を促した。さらに、参加者が英語で考えを発信できるよう、語彙や表現等のサポートを行った。



ワークショップで参加者と共有した画面

取組の成果・今後の展望

参加した児童生徒からは、「実際にネイティブの人と交流する機会を持つことが英語を話せるようになることへの近道であると感じた」、「海外の人と楽しく会話ができるくらいの英語力を身に付けたい」「外国の方と互いの文化等を伝え合うことで、友好的な関係を築き、通じ合うことができると感じた」等、今後の英語学習や国際的な活動に対する前向きな感想が挙げられた。

参加した児童生徒の中には、自分の考えを英語で外国人講師に伝える楽しさや充実感を味わう一方、語彙や文法等をさらに身に付け、より多くのことを伝えたいという思いを改めて持った参加者もいた。

今後も、外国人講師が話す英語に触れたり、異なる文化やアイデア等に触れる機会を設けることで、英語力、グローバル意識、グローバル意識の向上を図っていく。

問合せ先

担当部署名：岩手県教育委員会学校教育室

T E L : 019-629-6147

M A I L : DB0003@pref.iwate.jp

U R L : <https://www.pref.iwate.jp/kyouikubunka/kokusai/kokusaikouryu/1006919/1006921.html>



輝く!地域へ飛び出すJET-ALT

取組の主体			取組の対象				地域の国際化			特色ある取組				
JET-ALT	任用団体	CIR等との連携	児童・生徒 未就学児 小学 中学 高校				教員	住民	異文化理解	地域活性化	多文化共生	長期休業中の取組	配置の工夫	デジタルツールの活用

No.22 JET-ALTによる英語劇指導

実施時期：昭和54年～現在
任用団体名：石川県

取組のポイント

- 生徒の英語コミュニケーション能力を高める取組として、石川県高等学校文化連盟英語部（高文連英語部）では、各種大会を開催。
- その中でも年2回実施する英語劇大会に向けた練習の中で、JET-ALTが生徒のサポートに大きく貢献。

任用団体の基本情報

人口：1,112,528人

※令和5年4月1日現在

JETプログラム参加者の人数：（ALT）44人（CIR）0人（SEA）0人

学校数：中学校1校、高等学校43校、特別支援学校9校

取組の背景・課題

高文連英語部は、6月の石川県高等学校総合文化祭イングリッシュフェスティバルにおいて、10分間のステージパフォーマンスの大会を開催、また11月の英語劇発表会において、15分間の英語劇の大会を開催している。この2つの大会は石川県では高文連英語部創部当時より続く活動で、各学校の英語部の活動の中心として根付いている。

これらの大会への参加にあたって、各校において綿密な準備、練習が行われている中で、JET-ALTが生徒のサポートに大きく貢献している。

取組の内容

各参加校のJET-ALTは、英語劇の脚本作り、台詞の発音・イントネーションの矯正、演技練習において、英語部員のサポートを行っている。

特に、英語劇の脚本を作成する過程でのJET-ALTの指導は、生徒がより自然な英語表現を学ぶのに大きな役割を果たしている。生徒は日本語でシナリオを書いてそれを訳すことが多いため、自然なやり取りにならなかったり、文化的に外国人が理解できず、伝わりづらくなってしまふことがよくある。そのような際に、JET-ALTが、外国の文化に沿った自然な表現を指導するなど、生徒による脚本のブラッシュアップをサポートしている。

以下、英語劇発表会、イングリッシュフェスティバルでの指導の現状について紹介する。

英語劇発表会では、各校15分の持ち時間で、既成のものからオリジナル劇に至るまで様々なジャンルにわたる劇を発表する。近年はほとんどがオリジナル劇で、音楽やダンスが織り交ざったミュージカル風の劇を演じる学校もあれば、サスペンス系で観客が探偵になって楽しめる劇を上演する学校もあり、学校の特色がよく出て楽しい大会となっている。最近では、高校生の視点から社会の問題をとらえ、言葉に

取組の内容（続き）

よるスピーチではなく劇の形で訴えかけるメッセージ性の高いものが増えてきている。より自然なイントネーションや、正しい発音で台詞をいうことができるように、JET-ALTが各学校で言語面からの指導を行っている。

イングリッシュフェスティバルは10分の制限時間で英語を使ってステージで発表を行う。近年はほとんどの参加校が英語劇発表会のミニ版と捉えて英語劇を発表している。劇を発表することが難しい場合には、プレゼンテーションや人形劇、ダンス、合唱を発表する学校もあり、各校の事情に合わせて英語を使って楽しく発表できる場となっている。

JET-ALTは毎日の練習に生徒と一緒に参加して、生徒達の英語力や演技力の向上に助言を与えてくれており、なくてはならない存在である。



劇中で歌を歌っている様子



ミステリーの劇で推理を披露している様子

取組の成果・今後の展望

JET-ALTは、英語劇の練習を通して、日本人の生徒が、通常の英語の授業では学ぶ機会があまりない、英語圏の文化、英語の言い回し、自然な発音やイントネーション、ジェスチャーや豊かな表現の仕方を教えてくれる。英語部に所属する生徒の多くが、授業の中ではなかなか学ぶことができない表現を身につけることができている。

高文連英語部では、今回紹介した英語劇を発表する大会以外にも、スピーチコンテスト、ディベート大会、暗唱コンテストも開催している。スピーチコンテストにおいても、原稿作成の段階から発音指導に至るまで、またディベート大会では、外国の資料探しの方法や立論作りの手助け、即興的なやり取りの練習、そして暗唱コンテストでは正しい発音を身につけるための徹底した発音指導など、JET-ALTの協力があってこそ生徒たちはより大きな学びを実現できている。

これからもJET-ALTの協力を得ながら、生徒の英語力を高めていくための場となる各種大会を開催していきたい。

問合せ先

担当部署名：石川県高等学校文化連盟英語部事務局

MAIL：keiko_m@ishikawa-c.ed.jp

輝く!地域へ飛び出すJET-ALT

取組の主体			取組の対象				地域の国際化			特色ある取組				
JET-ALT	任用団体	CIR等との連携	児童・生徒 未就学児 小学 中学 高校				教員	住民	異文化理解	地域活性化	多文化共生	長期休業中の取組	配置の工夫	デジタルツールの活用

No.23 ALT・CIRが活躍する県民向け世界文化セミナー

実施時期：平成15年度～現在

任用団体名：茨城県

取組のポイント

- 県の国際交流協会が主催するセミナー（国際理解を目的に参加者と講師が双方向で議論する場）にJET-ALTが講師として参加。県民に多文化共生社会づくりに関する課題を新たな角度から考える機会を提供。
- 県CIRが企画・実施に従事。JET-ALTは県教育委員会、所属校の許可を得て参加。

任用団体の基本情報

人口：2,828,848人

※令和5年4月1日現在

JETプログラム参加者の人数：(ALT) 59人 (CIR) 4人 (SEA) 0人

学校数：高等学校92校、中等教育学校3校、中学校10校

取組の背景・課題

平成15年当時、予想されていた在留外国人の増加に対し、外国人と接する機会がほとんどなかった県民に、異文化理解を深めてもらう方法を検討していた。(当時在留外国人数5万人弱(県人口の約1.7%)→令和4年6月末現在8万人弱(約2.7%))

JET-ALTは国籍が多様で経歴も様々、人前で話すことにも慣れているが、学校での英語教育のほかは、英語で地域の国際化に貢献できる機会が限られていた。

そこで、県国際交流協会に兼務していた当時のCIRが協会事業として企画立案。JET-ALTが業務として参加(講師)できるよう県教育庁及び所属校等と調整。CIR・ALTの繋がりを活用し、JET-ALTの参加希望者を全県から募ることとした。

取組の内容

毎年、春(4～7月)と秋(10～2月)の2期、各8回セミナーを実施。JET-ALT・CIRを中心に外国出身講師が母国の社会・政治・経済・文化等についてプレゼン(1時間20分)したあと、参加者と意見交換(30分)を行う。言語は英語であるが、シニア層を中心に英語学習/会話意欲が高く常連が多い。

実施に際しては、以下の点に留意している。

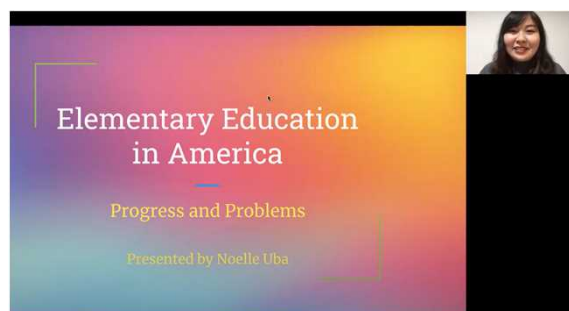
- 講師打合せの段階から英語で行うため、JET-ALTの日本語能力に依存しない。JET-ALTが母国の文化や得意分野を生きた英語で紹介することにより、英語で議論したい多くの日本人参加者に好評を得ている。
- 企画運営がフランス出身CIR(日本語堪能)のためJET-ALTの気どころも知れており、JET-ALTが気軽に参加できる。学校等との調整も当該CIRが日本語で対応可能。

取組の内容（続き）

- 新型コロナウイルス感染症の影響により、対面開催からオンライン開催に切り替えたところ、開催地の水戸市から地理的に遠い参加者が参加できるようになった。県全体を対象地域とする国際交流協会でも、オンラインであれば県民の公平なアクセスを担保できる。JET-ALTをはじめ遠方の講師も、オンラインを活用することで夜間の移動がなくなるなど心理的なハードルが下がった。
- 本県はJET-ALTを多く任用している。配属先での活動のほか、本セミナーのような地域住民との交流により、より多様な日本人県民と出会い、双方向の意見交換で物事の見方や考え方、茨城の魅力などを共有できることは、JET-ALTにとって日本に対する新しい視点を持つきっかけとなる。他方では、JET-ALTの出身国が抱えている課題やその対策の効果等について話を聞くことで、県民にとって、多文化共生社会づくり等日本社会が抱えている課題について、新たな角度から考える良い機会となる。



南アフリカ出身JET-ALTによるセミナー



アメリカ出身JET-ALTによるセミナー

取組の成果・今後の展望

新型コロナウイルス感染症の影響により、一時は講師不足に陥ったが、往来再開により回復基調になった。参加したJET-ALTの生の声として「母国と趣味を参加者に紹介できて、誇りに思った」、「日本と母国についていろいろ勉強になった。この機会を設けていただき、嬉しい」と好評を博していることから、学校以外の活躍の場、地域の日本人と交流できる場となっている。

受講者からは「アフリカ、中東、ヨーロッパ、アジア、アメリカと国際色豊かなプレゼンターから母国について直接話を聞き、貴重な経験だ」などのコメントが寄せられる。JET-ALTの活躍により、開始から20年間人気を不動のものとしている。

JET-ALTは日頃の業務で多くの日本人生徒の前に立っているため、プレゼン能力が非常に高く、聴衆のツボもおさえている。今後も関係機関の協力及びALT・CIRの繋がりを活かし、JET-ALTを中心に、多文化共生社会づくりにもつながる本セミナーを継続開催していきたい。

問合せ先

担当部署名：（公財）茨城県国際交流協会 世界文化セミナー担当

T E L : 029-241-1611

M A I L : iia@ia-ibaraki.or.jp

U R L : <https://www.ia-ibaraki.or.jp/project/event/world-culture-seminar/>



輝く!地域へ飛び出すJET-ALT

取組の主体			取組の対象				地域の国際化			特色ある取組					
JET-ALT	任用団体	CIR等との連携	児童・生徒	未就学児	小学	中学	高校	教員	住民	異文化理解	地域活性化	多文化共生	長期休業中の取組	配置の工夫	デジタルツールの活用

No.24 JET-ALTによる市民向け英会話講座

実施時期：令和元年～現在
任用団体名：茨城県桜川市

取組のポイント

- 市民を対象に、場面に応じた簡単な英会話講座を開催し、英語に親しみを持ってもらう。
- フィリピン共和国から招致したJET-ALTが、簡単な英会話の他に、フィリピンの食べ物や服装の紹介といった文化的な交流も行う。

任用団体の基本情報

団体の人口：37,136人

※令和5年4月1日現在

JETプログラム参加者の人数：(ALT) 3人 (CIR) 0人 (SEA) 0人

学校数：小学校8校、中学校4校、義務教育学校1校

取組の背景・課題

本市で採用したJET-ALTは、自身の文化に誇りを持っており、学校での外国語教育の他にも、その文化を日本人と共有したいという思いを強く持っていた。

本市では、生涯学習課において市民を対象とした公民館講座を開催していることから、当該JET-ALTを講師として、1年間に8回程度の英会話講座を開催することとなった。

ほかにも、本市の国際交流協会でも、JET-ALTによる文化講座を開催し、フィリピンの国や食文化などについて、紹介を行った。

取組の内容

JET-ALTと英会話講座の回数や内容について話し合いを行い、公民館講座受講生の募集のチラシに掲載する。

- 英語を楽しく学んでもらえるように、簡単な英語を使った英会話を中心に講座内容を決めた。
- 講座の時間は90分で、参加者は、10人程度募集した。

国際交流協会でも、JET-ALTによる文化講座を開催し、簡単なクイズを交えながら、紹介した。



文化講座で食文化を紹介するJET-ALT

取組の内容（続き）

英会話講座では、あいさつや自己紹介、好きな食べ物、道案内、ショッピング、お祭りといった内容を扱った。

- 日常生活で使う簡単な英会話を中心に実施。
- 講座では、フィリピンの町の紹介や食べ物、お祭りの紹介を行うとともに、JET-ALTが実際に、フィリピンのお菓子を持ってきたり、民族衣装を着て披露したりといった触れ合いもあった。
- 最後のセッションでは、本講座の一人一人がテーマを決めて、みんなの前で短いスピーチを行った。



民族衣装を着て食文化を紹介するJET-ALT



JET-ALTと英会話講座の受講生

取組の成果・今後の展望

英会話講座の参加者からは、非常に好評で、「また是非開催してほしい」といった声が非常に多かった。令和4年度で、4年目の開催となったが、4年間継続して受講している市民の方もおり、非常に人気の講座となっている。

文化講座では、受講した方から、フィリピンの習慣や言葉、文化などを、歴史的に理解することができたという声があり、好評であった。

こうした講座を実施するうえで、課題となったのは、受講生や担当課との連絡調整やコミュニケーション方法である。本市では、JETプログラムの担当者が行ったが、時間外に講座に出席し、サポートなども行っていたので、なるべく負担にならないように心がける必要がある。

※桜川市では、事業方針の変更に伴い、残念ながら、令和4年度（令和5年3月末まで）をもって、JETプログラムを終了することになる。

問合せ先

担当部署名：桜川市教育委員会学校教育課

T E L : 0296-55-1198

M A I L : gakkou_s@city.sakuragawa.lg.jp

U R L : <https://www.city.sakuragawa.lg.jp/>



輝く!地域へ飛び出すJET-ALT

取組の主体			取組の対象				地域の国際化			特色ある取組		
JET-ALT	任用団体	CIR等との連携	児童・生徒	教員	住民	異文化理解	地域活性化	多文化共生	長期休業中の取組	配置の工夫	デジタルツールの活用	

No.25 住民向け英会話教室

実施時期：昭和63年～現在
任用団体名：徳島県勝浦町

取組のポイント

- JET-ALT 2 人を講師として週に 1 度、夜間に町内の住民福祉センターで住民向け英会話教室を実施。
- 20代から80代までの幅広い世代が参加しており、英語を通じて世代を超えた交流の場にもなっている。

任用団体の基本情報

団体の人口： 4,791人 ※令和 5 年 4 月 1 日現在
JETプログラム参加者の人数： (ALT) 2 人 (CIR) 0 人 (SEA) 0 人
学校数：小学校 2 校、中学校 1 校

取組の背景・課題

勝浦町は地方部に立地しており、英語を学ぶことができる教室等がなく、他の市町村へ足を伸ばさなければいけない状況であった。

そこで、町民の英語を学ぶ機会をより増やすため、当時の教育委員会に所属していた町職員の発案により、町内の勝浦町住民福祉センターで英会話教室を開講した。

昭和63年から35年以上にわたり開講されている教室であり、現在では20代から80代までの幅広い世代の参加者を集め、JET-ALTと交流しながら英会話を学ぶ場となっている。

取組の内容

- 毎週水曜日（夏季・冬季・春季休暇、祝日除く）に、町内在住または町内に勤めている人を対象に実施している。
- 日中働いている社会人も参加しやすいよう、初級コースは午後 7 時～午後 8 時、中級コースは午後 8 時 10 分～9 時 10 分に実施している。
- JET-ALT を講師としており、平成 29 年からはJET-ALT を 1 人から 2 人に増やすなど質の向上及びJET-ALT の負担軽減を図っている。
- 普段の講義の中で、過去 1 週間に起こった出来事を話す「week story」を実施したり、洋楽を歌ったりなど、英会話を楽しむことを第一に行っている。
- 近年では100歳を超えてから英語に挑戦したいという人や久しぶりに英語に触れたいという20代前半の人など、幅広い年代の人が英語を通じて交流する場にもなっている。

取組の内容（続き）

- 英語に慣れ親しんでいない受講者が多いため、まずは楽しみながら英語圏の文化や英語に触れることができるように、初級コース・中級コース合同で季節行事などのイベントを開催している。
- お花見などの日本の季節行事を開催することで、JET-ALTへ行事の説明を英語で行うなどアウトプットの機会となる。また、日本に馴染みのない「Cinco de Mayo」（メキシコの行事）などの海外の行事を開催することで、受講生が異文化の風習や食事に触れたり、新たな英単語や知識をインプットできる機会となる。
- 町内行事（町民運動会等）にもJET-ALTと受講者とでチームを組み「英会話教室チーム」として出場するなど、JET-ALTと受講者の距離も近く親しみを持って取り組むことが出来ている。
- 町内広報誌へ受講者募集の案内を出している。
- 英会話教室の担当者が若い世代へ声をかけたり、受講者が友人等を誘うことで、20代から80代までの幅広い世代が参加しており、英語を通じて世代を超えた交流の場にもなっている。



英会話教室の様子



イベントを開催した時の様子

取組の成果・今後の展望

一方的に教わるという授業内容ではなく、JET-ALTと受講者が一緒になって楽しめるパーティーを開催するなど様々な取組を行っている影響からか、受講者からの評価は高く、引き続き英会話教室を受講してくれることが多い。

授業内容についても、私生活の中で四国八十八カ所巡りをしている外国人と会った時に英語で会話をすることができたという受講者の声があるなど、質の高いものとなっている。

現在参加している受講者に引き続き英会話教室に参加してもらうために、季節行事やパーティなどのイベントを恒常化し、インプットとアウトプットの機会を増やしていきたいと考えている。

令和5年はJET-ALTが代わる年でもあることから、日本の文化や町の事について伝えることができる場となるよう「week story」などで話す機会を増やしていきたい。また、新たな参加者を増やすために、町内広報誌への掲載のみならず、町HPに本取組について掲載したいと考えている。

問合せ先

担当部署名：勝浦町教育委員会事務局

T E L : 0885-42-2515

M A I L : kyoiku@town.katsuura.i-tokushima.jp

U R L : <http://www.town.katsuura.lg.jp/inquiry-kyoiku/12/>



取組の主体			取組の対象				地域の国際化			特色ある取組			
JET-ALT	任用団体	CIR等との連携	児童・生徒			教員	住民	異文化理解	地域活性化	多文化共生	長期休業中の取組	配置の工夫	デジタルツールの活用

No.26 コロナ禍でもできる「KID'S WORK-OUT」ビデオ

実施時期：令和4年～現在

任用団体名：新潟県燕市

取組のポイント

- 燕市で勤務するJET-ALT3人が、新型コロナウイルス感染拡大により実施できなかった、保育園等での英語レッスンの代わりに、「KID'S WORK-OUT」のビデオを作成。
- 市内の該当各園から、園だより等で保護者に視聴用URLをお知らせ。

任用団体の基本情報

人口：77,021人

※令和5年4月1日現在

JETプログラム参加者の人数：(ALT) 3人 (CIR) 0人 (SEA) 0人

学校数：小学校15校、中学校5校

取組の背景・課題

本市では、保育園などに通う3～5歳児クラスにおいて、日本人英語指導員助手が、市内の該当各園、年4回の英語レッスンを行っている。

令和4年度は、新型コロナウイルスの感染状況に鑑み、第1回の訪問を取りやめたが、3月ごろ、燕市教育委員会学校教育課の英語指導員の発案に基づき、JET-ALTが中心になって、「KID'S WORK-OUT」(キッズ エクササイズ)ビデオを企画、出演、制作した。

取組の内容

幼児用えいごレッスンビデオの前半コンテンツ「KID'S WORK-OUT」は、以下の内容で制作した。

- ビデオの内容は、以前実施していた英語レッスンを踏まえて、JET-ALTと日本人英語指導員助手との協議で決定した。
- 収録場所の確保、スケジュールの調整は燕市教育委員会学校教育課の英語指導員が実施した。
- 市内の公立幼稚園、公立・私立保育園、公立・私立こども園の内、レッスンの対象となる3歳児から5歳児が通う23園を通して、「KID'S WORK-OUT」のビデオの視聴用URLと二次元バーコードを保護者へ通知。
- 1から10までの数を聞いたり、口ずさんだりしながらできる簡単なエクササイズのお手本をJET-ALT等が実演。
- 画面に出てくる動物のイラストと英語の動物の名前を聞いて、そのジェスチャーをするエクササイズをJET-ALT等が実演。
- コロナ禍であっても、新しい形での英語レッスンを提供。

取組の内容（続き）

本取り組みを実施するにあたり、保育園等のビデオの視聴用機材やインターネット接続などの現状を踏まえ、英語レッスンビデオの提供方法の決定に苦労した。

ビデオ視聴用機材のそろっていない園のお子さんにも平等に視聴できるように、以下のように工夫した。

- ビデオは、YouTube限定公開とし、視聴用URLを園だより等で保護者へお知らせした。
- まだ英語に不慣れなお子さんにも分かりやすいように、ジェスチャーや動きを工夫してお手本の演技をした。



「KID'S WORK-OUT」ビデオ

取組の成果・今後の展望

令和4年度は、燕市教育委員会が、保育園等から小学校、そして中学校へと継続的に英語教育の機会を提供する事業「Jack & Bettyプロジェクト」をはじめ、10周年となった。

コロナ禍で対面でのレッスンが実施できない状況下でも、JET-ALTと日本人英語指導員助手等の予定を燕市教育委員会学校教育課の英語指導員が調整し、協力して従来とは違う形の事業の実施方法を実現させた。

令和4年6月17日に視聴を開始してから、令和5年3月20日時点のビデオの視聴回数は、183回となっている。

このビデオの作成は、主に中学校で指導しているJET-ALTにとって、新たな活躍の機会となった。

今後、燕市教育委員会が主催している英語教室の開講式での司会や、市内中学校で活用できるリスニング練習問題のスキriptの作成及びその録音への協力を依頼するなど、JET-ALTの活躍の場を広げたい。

問合せ先

担当部署名：燕市教育委員会 学校教育課 指導係

T E L : 0256-77-8191

M A I L : edu_gakkou@city.tsubame.lg.jp

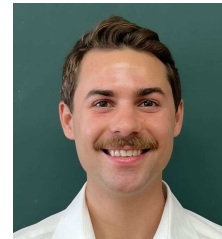
U R L : <https://www.city.tsubame.niigata.jp>



取組の主体			取組の対象				地域の国際化			特色ある取組					
JET-ALT	任用団体	CIR等との連携	児童・生徒	未就学児	小学	中学	高校	教員	住民	異文化理解	地域活性化	多文化共生	長期休業中の取組	配置の工夫	デジタルツールの活用

英会話教室「EASY英会話」

実施時期：令和5年～現在
任用団体名：熊本県美里町



Zachary Summerfield Mease さん

取組のポイント

- 日常会話や文化的な話題、アクティビティを通して、楽しく英語を使うことに重点を置いた英会話教室「EASY英会話」を、初級・中級のクラス別に毎週1コマ各50分で開催。
- 専用のLINEアカウントを作成し、イベントのスケジュールや運営情報をお知らせ。授業資料や質問も簡単に共有。

任用団体の基本情報

人口：9,008人

※令和5年4月1日現在

JETプログラム参加者の人数：(ALT) 2人 (CIR) 0人 (SEA) 0人

学校数：小学校3校、中学校2校

取組の背景・課題

私は、JET-ALTとして授業をする中で、英語の理解に苦しんでいる生徒を見かけしており、さらに教育委員会の報告書から英語のテストの点数が数年前から低下していることを知った。自分の暮らす地域のために何か貢献したいと思い、「EASY英会話」を立ち上げた。

美里町にはこのような英会話教室の前例がないため、開講してすぐの頃は、多様な生徒を対象に、さまざまな指導方法を試した。採点やテストのプレッシャーなしに、自然に英語を使えるようにすることを目指した。現在では、初級者14名、中級者3名が受講している。

取組の内容

- 初級クラスと中級クラスを部活のない毎週水曜日に1コマ50分ずつ実施している。
- 現在の生徒の年齢層は4歳から85歳までと幅広く、英語レベルも全くの英語初心者から流暢な方まで、様々なレベルの方が参加している。
- 参加費は無料で、運営費は全米JET元参加者の会 (USJETAA) の少額寄付プログラム (Microgrant) からの助成ですべて賄っている。
- 参加者が軽食をとりながら気軽に学習できるようにおやつを用意している。
- 初級クラスは、4歳から10歳までの生徒が参加しており、英語初心者が楽しめるように、単語や文法の説明を手短にし、レクリエーションを長めに行っている。
- 中級クラスは、50歳以上の社会人や退職した方が多く、カジュアルな会話を通じて英語を楽しみながら、地元のニュースやアメリカ文化などの興味深い話題について話し合っている。

取組の内容（続き）

- ・ 毎週3時間程度、「EASY英会話」の計画や準備に時間をかけている。私が幼稚園や保育園で授業をした際に作った教材を再利用するなどして、効率よく準備をしている。
- ・ 「EASY英会話」の参加者、または興味がある方のためにLINEアカウントを作成した。このアカウントをフォローすると、イベントのスケジュールや運営情報などを参加者に簡単に知らせることが可能であり、授業の資料やイベントの写真、英語の質問なども容易に共有できる。
- ・ 生徒募集の広報は、役場や町内の商業施設、「EASY英会話」が開催される文化センターへのポスターへの掲示、学校メールでの配信や町の広報誌への広告掲載などをおこなった。地元のグループホームで英語を教えるボランティアをしながら口コミでの宣伝も行った。
- ・ 私は日本語が流暢ではないので、美里町内で「EASY英会話」を宣伝することは非常に困難だった。教育委員会のJET-ALT担当者と英語専科の教職員に広告資料の校正などを手伝ってもらうことで、「EASY英会話」のことを多くの人達に広めることができた。



「EASY英会話」のポスター



教室で使用する資料



教室の様子

取組の成果・今後の展望

参加者は、カジュアルな話題や文化的な話題、また自分の個人的な興味について授業中に気軽に質問できるようになり、英語力の向上に繋がっている。フィードバック調査を行ったところ、生徒とその保護者から、「『EASY英会話』は楽しかった。授業に非常に満足している。」との回答を得ている。

また、「EASY英会話」は開講してから3ヶ月の間に、参加者数が13名から17名に増加しており、関心の高まりを感じている。

今後は参加者を増やすため、地域のイベントでの宣伝や、町外に新しいポスターの掲示を検討している。美里町教育委員会と連携して、中学校の教職員や生徒を対象としたワークショップ形式の授業も検討している。

問合せ先

担当部署名: 熊本県美里町教育委員会

T E L : 0964-46-2115

M A I L : gakumu@misato.kumamoto.jp

U R L : lin.ee/DyKMDif



JETプログラムとは

JETプログラムは、総務省、外務省、文部科学省、CLAIRの協力の下、外国青年を招致して地方自治体等で任用し、外国語教育の充実と地域の国際交流の推進を図る事業です。

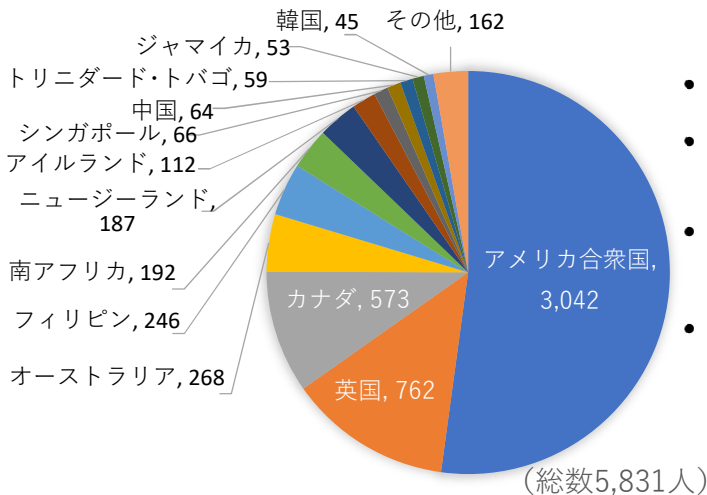
JETプログラムの職種

- ALT（外国語指導助手: Assistant Language Teacher）
教育委員会や学校で、外国語教員等の助手として職務に従事
- CIR（国際交流員: Coordinator for International Relations）
地方公共団体の国際交流担当部局等で国際交流活動に従事
- SEA（スポーツ国際交流員: Sports Exchange Advisor）
スポーツを通じた国際交流活動に従事

JETプログラム外国語指導助手（JET-ALT）は、教育委員会や公立・私立学校で所属長や校長の指示を受け、外国語担当指導主事又は外国語教員等の助手として勤務しています。教材の準備や英語研究会のような課外活動、時には部活動や地域の国際交流活動へも参加し、各地域で異文化交流等に貢献しています。JETプログラム参加者の90%以上がALTとして従事しています。



JETプログラムの実績



- 令和5年度で**設立37年**
- 50か国から**5,831人**を招致（令和5年度）
- 累計で**世界77か国から約7万7千人**の外国青年を招致
- 全国各地の地域における国際化に寄与するとともに、参加者は帰国後も日本理解の促進にも貢献

「JET-ALT活動事例集作成ワーキンググループ」 構成員名簿及び開催状況

【構成員名簿】

浅原 寛子	文部科学省初等中等教育局教育課程課 外国語教育推進室長
荒井 忠行 (※第2回～)	(一財)自治体国際化協会JETプログラム事業部長
草壁 京 (※第2回～)	総務省自治行政局国際室長
小林 努 (※第1回のみ)	(一財)自治体国際化協会JETプログラム事業部長
シェイニー・クロフォード	つくばインターナショナルスクール校長
高畠 尚子 (※第2回～)	鎌ヶ谷市教育委員会指導主事
土田 久美子	駒澤大学文学部社会学科准教授
畑山 栄介 (※第1回のみ)	総務省自治行政局国際室長
馬目 政輝 (※第1回のみ)	鎌ヶ谷市教育委員会指導主事
渡邊 慎二	外務省大臣官房人物交流室長

(五十音順：敬称略)

【開催状況】

第1回	令和5年2月22日……………	事例集の掲載項目、調査・事例選定の 進め方、事例選定の視点の検討
第2回	令和5年4月25日……………	掲載事例の選定
第3回	令和5年6月29日……………	事例集案の確認

JETプログラム外国語指導助手（JET-ALT）活動事例集

令和5年7月31日発行

編集・発行 総務省自治行政局国際室
TEL : 03-5253-5527
FAX : 03-5253-5529
E-mail : kokusai@soumu.go.jp
